

# 中期目標・中期計画

## 第3期

令和6年度(2024)～令和10年度(2028)

進捗状況報告書(令和7年度)

岐 阜 女 子 大 学

## 目

## 次

## 1. 中期計画（目標，計画）

・華陽学園・岐阜女子大学	1～6
・家政学部 生活科学科（生活科学専攻，建築デザイン専攻）	7～13
・ // 健康栄養学科	14～19
・文化創造学部 文化創造学科（文化創造学専攻，デジタルアーカイブ専攻，初等教育学専攻）	20～31
・大学院 文化創造学研究科	32～35
・ // 生活科学研究科	36～39
・地域文化研究所	40～41
・文化情報研究センター・デジタルアーカイブ研究所	42～43
・衣食住生活研究センター	44～45
・長寿健康栄養学センター	46～50
・沖縄カリキュラム開発研究センター	51～55
・南アジア研究センター	56～60

## 進捗状況記号の凡例

記号	進捗状況
Ⅳ	進捗状況が予定したより上回っている（エビデンスを添付）
Ⅲ	進捗状況が予定したとおりである（エビデンスを添付）
Ⅱ	進捗状況が予定したより進んでいない（理由を記述）
Ⅰ	進捗状況が、まったく進んでいない（理由を記述）

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b></p> <p>①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・学科・専攻等の特色、授業内容による教育効果に配慮した科目を設定し、推進する。                      ・科目の整備は3年間程度の年度計画で行い、不断に見直す。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b></p> <p>①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p> <p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・学生のポートフォリオを促進し、知識・技術の自己認識（可視化）を図る。                      ・学修に関する資料等のアーカイブ化を図り、学内に公開する。                      ・生涯学習、学校教材や許諾を得た地域情報の発信を推進する。</p> <p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・新たな知見を得るための新たな取り組みとして、学修の内容に積極的に取り入れる。                      ・データサイエンスを駆使した有用な情報の発信に努める。                      ・受講者の個別最適の授業法を探求し、学びの方法を広げていく。</p> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討によるカリキュラム・ポリシーの見直し                      ・社会ニーズに対応するため、新たな手法による教授方法を推進する。                      ・教育DXの推進による教育の可視化を図り、教育力の向上を図る。                      ・ナンバリングを意識したモデルカリキュラムで学修の可視化を図る。</p> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。                      ・地域と連携した実践的事業を展開、地域の方々との関わりを通して人間力、コミュニケーション力を高める。                      ・主体的学びを通して、言語表現力の充実を図る。</p>	実施	実施・改善	実施・改善	実施・改善	実施・改善	II	○令和7年度 e-Learning 構築：15 科目	Multi Campus One Digital University <a href="https://mcodu.jp/">https://mcodu.jp/</a>
	実施	継続	継続	継続	継続	II	○デジタルアーカイブと共に教育リソース（84 件）の充実を行っている。	教育リソース <a href="https://digitalarchiveproject.jp/category/text/">https://digitalarchiveproject.jp/category/text/</a>
	実施	継続	継続	継続	継続	II	○岐阜女子大学データサイエンス基礎教育プログラムを構築し、データサイエンスの充実を図っている。 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/text/%e5%b2%90%e9%98%9c%e5%a5%b3%e5%ad%90%e5%a4%7%e5%ad%a6%e3%83%87%e3%83%bc%e3%82%bf%e3%82%b5%e3%82%a4%e3%82%a8%e3%83%b3%e3%82%b9%e5%9f%ba%e7%a4%8e%e6%95%99%e8%82%b2%e3%83%97%e3%83%ad%e3%82%b0%e3%83%a9/">https://digitalarchiveproject.jp/text/%e5%b2%90%e9%98%9c%e5%a5%b3%e5%ad%90%e5%a4%7%e5%ad%a6%e3%83%87%e3%83%bc%e3%82%bf%e3%82%b5%e3%82%a4%e3%82%a8%e3%83%b3%e3%82%b9%e5%9f%ba%e7%a4%8e%e6%95%99%e8%82%b2%e3%83%97%e3%83%ad%e3%82%b0%e3%83%a9/</a>	岐阜女子大学データサイエンス基礎教育プログラム
	実施	継続	継続	継続	継続	III	○メタバース・ドローン活用範囲を学生に拡大。 ○外部評価委員会で報告し、検討充実を図っている。 ○理事会・評議員会において、岐阜県内高校生のアンケート結果からニーズに対するディプロマ・ポリシーを検討。	外部評価委員会資料
	実施	継続	継続	継続	継続	III	○地域連携を図り、岐阜市や下呂市など地域との連携協定を締結し、連携を強化している。 ○高大連携（学生の高校授業への参加）。山県市との連携を強化。	外部評価委員会資料 食物栄養と食文化第 15 巻

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
③新たな資格取得支援を推進する。 ・社会ニーズに対応するために必要な資格に関する幅広い情報を提供し、資格取得のための支援策を充実する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○資格取得のガイドブックを作成し、また、授業科目にも資格取得支援の授業科目を開講し、資格試験の項目の見直しと支援を充実している。	外部評価委員会資料 食物栄養と食文化第14巻
<b>(3) 学修支援体制の拡充のための措置</b> ①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。 ・学修ポートフォリオ、ティーチングポートフォリオによる学習成果の可視化に努める。 ・各種資格取得支援講座における学修達成度を可視化し、指導・学修に活用する。 ・成果をホームページに公開し、学生の動機付けを高める。 ・高等学校との連携状況を学修成果ポートフォリオとしてとらえ、推進する。 ・学生が実施する保育・教育現場での指導力の評価を、自身・大学・実習先の連携で実施し、学生の教育実践力を高める。 ・GPA数値の有効な活用法を迫る。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○学習成果を可視化するために、卒業研究や修士論文などの情報を公開している。また、これらの成果をデータベース化し、学生がこれらの成果を確認することが可能となっている。  ○高等学校との連携事業についてホームページで公開している。 高大連携講座 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/text/%e3%80%90%e7%a0%94%e7%a9%b6%e3%80%91ict%e3%82%92%e6%b4%bb%e7%94%a8%e3%81%97%e3%81%9f%e3%80%8c%e4%b8%bb%e4%bd%93%e7%9a%84%e3%83%bb%e5%af%be%e8%a9%b1%e7%9a%84%e3%81%a7%e6%b7%b1%e3%81%84%e5%ad%a6/">https://digitalarchiveproject.jp/text/%e3%80%90%e7%a0%94%e7%a9%b6%e3%80%91ict%e3%82%92%e6%b4%bb%e7%94%a8%e3%81%97%e3%81%9f%e3%80%8c%e4%b8%bb%e4%bd%93%e7%9a%84%e3%83%bb%e5%af%be%e8%a9%b1%e7%9a%84%e3%81%a7%e6%b7%b1%e3%81%84%e5%ad%a6/</a>	図書館HP 卒論デジタルアーカイブ  高大連携講座
②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・授業のe-Learning化推進に資する。 ・アーカイブ化した資料を活用するための組織を充実する。 ・利活用の方法を教授する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○Multi Campus One Digital Universityの構築。 <a href="https://mcodu.jp/">https://mcodu.jp/</a>	
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・連携先企業を開拓し、中長期のインターンを実施する体制を整備する。 ・インターンシップ、教育実習の効果的実施方法を不断に検証する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○インターンシップの情報を積極的に公開し、インターンシップを単位化して推進している。	
④生活基盤の安定を支援する。(奨学金制度の活用を推進) ・アドバイザー、学年主任が連携し、学業、生活状況を把握する。 ・関係者に適切な奨学金制度の紹介等を行う。 ・学生間の交流を活用した支援を取り入れる。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○奨学金の説明会を開催し、奨学金の活用を推進している。又、新規入学生に対してはガイダンスで詳しく説明している。 ○大学独自の特別奨学金制度を創設して、学生の支援をしている。	特別奨学金給付表
⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。 ⑤-1 就職率の維持 ・大学での学修を活かした学生が納得できる就職活動を支援する。 ・社会実習をとおして、人間力やコミュニケーション力の向上を図る。 ・資格の取得を推奨し、関係する教育支援を実施する。 ・学生との面談を実施し、進路を見失わないよう指導を継続する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○求人情報を学生に随時連絡し、就活ガイダンスや各種就活の意見集会を開催している。 ○R8.4.30 内定率 99.5%	就職率一覧表
⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・試験対策講座等の支援を充実する。 ・資格に関する授業をe-Learning化し、いつでも学べる環境を支援する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	○資格取得の対策講座を開催し、資格取得の支援を充実している。 ○資格取得に必要な教育内容のe-Learning化を進めることとしている。	食物栄養と食文化第15巻

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理系を重視した文理融合の教育組織を目指す。</li> <li>・改組・改編に必要な人材を養成・確保する。</li> <li>・デジタルトランスフォーメーション(DX)による教育の質的転換に取り組む。</li> </ul> <p>①-2 社会から求められる新たな資格の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報」「データサイエンス」「文理融合教育」</li> </ul> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育リソースによる生涯学習につながる e-Learning、DX を用いた特徴的授業システムを構築し展開する。</li> <li>・自ら学ぶ主体的学修活動を支援するための情報を発信する。</li> <li>・学生の持つ資質を活かし、より高次に学修できる個別最適の学習方法を探求する。</li> </ul> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に携わる卒業生との連携を強化し、社会ニーズの把握と検証に努める。</li> <li>・特徴的授業を学生・教員が一体的に高等学校と連携して実践交流を行う。</li> <li>・高等学校との連携協定を推進する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	III	<p>○令和6年の7月には、新学科設置準備委員会を創設し、新学科設置に関する検討会を17回開催している。</p> <p>○R7.2 県内高等学校の協力により第1回学生アンケートを実施。</p> <p>○R7.9 県内高等学校の協力により第2回学生アンケートを実施。</p>	【大学会議】機能強化支援事業
	準備	実施	継続	見直し	実施	II	<p>○新たにデータサイエンスに関係する資格取得を支援。</p> <p>○6年度後期の授業実績をもとに、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の登録。</p>	外部評価委員会資料
	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	III	<p>○Multi Campus One Digital Universityの構築の推進 <a href="https://mcodu.jp/">https://mcodu.jp/</a></p>	外部評価委員会資料
	実施	実施	見直し	実施	実施	II	<p>○高等学校との連携を推進している。 <a href="https://gijodai.jp/chiki-renkei/">https://gijodai.jp/chiki-renkei/</a></p> <p>○新学科構想に沿った授業科目の開設を目指す。</p>	連携協定書
<p><b>2. 研究ビジョン</b></p> <p><b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b></p> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・論文作成を推奨し、評価、表彰する。</li> <li>・授業・卒業研究指導を行うためユニークな研究を探求し、論文を作成する。</li> <li>・継続している研究について経時的変化を検証し、論文を作成する。</li> <li>・研究所、研究センターと協力し論文作成を推進する。</li> </ul> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・研究等の公募情報を教職員で共有し、教育・研究を高度化するため外部資金の獲得を目指す。</li> </ul> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニークな取り組みを学内共有し、共同研究を推進する。</li> </ul>	実施	継続	継続	継続	継続	II	<p>○常に論文作成を言及しており、論文作成のための各種報告書や論文集を随時発刊に努めている。(図書館リポジトリ)</p>	長寿健康栄養学センター報告書第9号
	実施	継続	継続	継続	継続	II	<p>○外部資金の獲得に向けて、教育・研究の高度化を図っている。(例)私立大学地方創生推進事業など</p>	
	実施	継続	継続	継続	継続	II	<p>○デジタルアーカイブと観光や初等教育学専攻などとの連携を図っている。</p>	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・教育リソースを活かした学部横断的研究活動を推進する。</p> <p>④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。</p> <p>・科学的・論理的思考のできる人材を育成するため研究力を高め、研究科に繋げる。</p> <p>・フィールドリサーチを重視した研究を推進する。</p> <p>・早期履修制度活用し研究を高度化する。</p> <p>・社会人入学生と連携し、SDGsの社会ニーズに貢献できる技術の修得を図る。</p>	準備	実施	継続	見直し	実施	II	<p>○メタバースなど新たな取り組みを推進し、共同研究を推進している。 (長谷虎紡績株式会社覚書、株式会社都築産業覚書)</p> <p>○実践教育に関する論文の作成を推進し、社会ニーズへの貢献を目指す。</p> <p>○南アジア研究センター 研究生の受け入れを推進。</p>	覚書
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 地域コミュニティづくり</b></p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の可視化を図る。)</p> <p>・大学が取り組む特徴的に教育・研究活動を、積極的に発信する。</p> <p>・SDGsへの取組など、社会が求める活動をホームページ上で発信する。</p> <p>・行政との連携協力による地域住民との活動や調査研究の成果を地域に発信する。</p> <p>・ユニークで先進的な取組について成果をマスメディアに向けて積極的に発信する。</p> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)</p> <p>・岐阜県の関係機関と協力し、大学に求められるニーズの発掘に努め貢献を継続する。</p> <p>・関係する自治体・企業等との協議の場を設け、連携を深める。</p> <p><b>(2) 生涯学習の環境づくり</b></p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <p>・大学・研究所等が保有する教育リソースや知見を整理しe-Learning化を進め一般社会人のリスキリングを支援する。</p> <p>・健康・安全をキーワードとした社会ニーズの高い情報を地域に向けて発信する。</p> <p>・情報環境を整備し、大学資料を広く学習できる体制の構築を目指す。</p>	実施	継続	継続	継続	継続	II	○下呂市との地域連携によりメタバースの活用を推進している。	外部評価委員会資料
	実施	継続	継続	継続	継続	II	○下呂市との地域連携によりメタバースの活用を推進している。	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	○Multi Campus One Digital Universityの構築の推進において、リスキリングを推進し生涯学習を展開している。	
<p><b>4. 組織・運営体制</b> <b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b></p> <p><b>(1) 経営基盤の確保のための措置</b></p>								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
①定員管理を適正に行う。 ・広く社会ニーズを調査し、適正な入学定員を検証し学則改正等を行う。 ・定員充足できるよう、学校訪問等学生募集に努める。 ・高等学校等との連携を強化し、カリキュラムの内容や学生募集の内容を見直す。	実施	継続	継続	継続	継続	II		事業活動収支計算書
②収益事業を推進する。 ・岐阜女子大学ドローンカレッジを適正稼働する。 ・公開講座等の内容を見直し、受講生を確保する	実施	継続	継続	継続	継続	II	○若手教員の外部資金（一般財団法人越山科学技術振興財団の研究助成）への申請。	
③外部資金の確保に努める。 ・公募情報を共有し、申請に努める。 ・科学研究費補助金に申請し、採択を目指す。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○外部資金の確保に努めた。	科研費申請リスト 補助事業報告書
<b>（２）ステークホルダーとの連携</b>								
①大学情報を効果的に発信する。 ・リーフレット、チラシ、ホームページ等で大学の情報を配信する。 ・魅力ある情報発信に努める。 ・見やすい、わかりやすい情報発信に努める。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○大学広報（高校訪問資料）を高校生目線へ見直しを行っている。 ○学報の内容を検討している。	学報
②学内外からの大学支援を依頼する。 ・関係する企業等の連携を図るため、本学の情報を的確に発信し理解を得る。 ・本学の活動とのマッチングを図り、連携を強化し支援を得る。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○デジタル技術を高度に修得するため、企業の支援を受けメタバース等を構築している。（岐阜車体との連携）	同窓会だより
<b>（３）計画的基盤整備</b>								
①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。 ・SDGsを意識した事業を展開する。教養教育の一環として関連授業を開講する。 ・地域の要請に応じ、関係する生涯学習や協同事業を実施する。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○岐阜県と協力し学生食堂において地産地消のメニューを提供 ○GXを意識したリフォームを提案、実施している。 ○山県市・NPO山県郷の和との連携協力覚書	
②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・学生・教職員のニーズ把握を継続する。 ・教育研究機器の更新に努める。 ・学生アンケート調査を基に必要設備の導入等に努める。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○実習授業の一環として、税務署と連携近隣小学校で「税」に関する授業を実施 ○CCNと下呂温泉をテーマとした番組制作に関する覚書	覚書
<b>（４）学生の確保のための措置</b>								
①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・社会ニーズ、出口としての就職率や就職先などの調査を実施する。 ・調査結果に基づく教育組織の構築を目指す。 ・高等学校との連携の在り方について検討・実施する。 ・オープンキャンパス参加者、資料請求した学生への広報の在り方を検討・実施する。	実施	継続	継続	継続	継続	II	○令和6年度令和6年10月28日収容定員の変更届出を提出。 収容定員 1,320名 ⇒ 860名 【変更前】家政学部生活科学科 200名、同健康栄養学科 480名、文化創造学部文化創造学科 640名 【変更後】家政学部生活科学科 160名、同健康栄養学科 320名、文化創造学部文化創造学科 380名	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・退学者・休学者の減少に努める。</p> <p>・入学定員を見直す。</p> <p><b>(5) 教職員の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <p>・広く人材を確保し学修の継続を図る。</p> <p>・研究力と教育力に優れた人材を確保する。</p> <p>②計画的な人事施策により組織の若返りを図る。</p> <p>・若手教員の研究支援を充実する。</p> <p>・定年制的確な運用を図る。</p> <p>・実務家教員の適正配置等バランスの取れた教員組織を目指す。</p> <p>③FD・SDを推進する。</p> <p>・教員相互・学生による授業評価を推進し、授業研究、評価、改善に資する。</p> <p>・教育力、研究力に優れた人材を評価する。</p> <p>・教育実習等の外部による学生の評価を分析し、教育力の向上に資する。</p> <p>・大学情報を共有する。</p> <p>・多様な機会を活用し、教職員の資質の向上に努める。</p>	準備	実施	実施	実施	実施	II	○新学科構想に合わせて教員公募を実施。 R7 2名（建築デザイン専攻、健康栄養学科） R8 1名（建築デザイン専攻）	FD・SD資料
	準備	実施	実施	実施	実施	II	○研究成果を発表しやすいように、公開の場を設定。 ・学内研究施設の報告書の充実 ・一般社団法人遠隔教育振興会を立ち上げ。	
	実施	実施	実施	実施	実施	II	○教育実習の状況を検証し、「教育実習に行く前の要件」を策定した。 ○「教職員の学生対応について」学生部長を講師にFD研修を実施した。 ○学生アンケートに係るFDを実施。	
<p><b>5. 点検評価</b></p> <p><b>自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携</b></p> <p><b>(1) 内部質保証の継続のための措置</b></p> <p>①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。</p> <p>・学修成果の可視化を推進し、学生と共有する。</p> <p>・学生による授業評価を重視し、主体的学びや達成感を得られる授業に改善する。</p> <p>・定期的に自己点検評価・外部評価を実施する。</p> <p>②教学IR体制を充実する。</p> <p>・IR室の組織を充実する。</p> <p>・関連組織との連携を強化し、IR資料の在り方を検討し充実を図る。</p>	実施	継続	継続	継続	継続	III	○今年度も「外部評価委員会」を開催した。（毎年実施）	外部評価委員会資料
	実施	継続	継続	継続	継続	II		

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b>  <b>【生活科学専攻】</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・専攻及び学部において学びの質を考慮し、遠隔教育の実施可能な科目の検討を行う。授業構成を組み立て、教材準備及び展開実践例を作成する。                      ・コアカリキュラム科目から検討し、専任教員が各自実施できるよう推進する。  <b>【建築デザイン専攻】</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・学部共通科目、教職関連科目、資格取得支援関連科目等の遠隔教育対応を3年を目途に行う。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b>  <b>【生活科学専攻】</b>                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。                      ①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・学生の授業でのポートフォリオ作成、活用を促進し、知識・技術の定着と自己評価につなげる                      ①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・卒業研究や、ディスカッションを伴う学修において積極的に活用する。                      ①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し                      ・コース設置の検討に伴い、カリキュラム・ポリシーの見直しを行う。</p>	計画案作成準備	試行	実施	調査・改善	実施	III	・コアカリキュラム科目「被服学概論」の e-learning 化におけるテキスト作成まで完成。動画作成は次年度に継続作成予定である。	カリキュラム、コアカリキュラム テキスト等資料
	2 科目の遠隔教育化	10 科目程度の実施	10 科目程度の実施	試行・改善	実施	II	・10 科目の e-learning 化を計画しているが、教材動画の作成に想定以上の時間を要しており、全体として計画どおりの進捗には至っていない状況である。	建築デザイン専攻-デジタルアーカイブ研究所-岐阜女子大学 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/category/multi-campus-one-digital-university/%e4%bd%8f%e5%b1%85%e5%ad%a6%e5%b0%82%e6%94%bb/">https://digitalarchiveproject.jp/category/multi-campus-one-digital-university/%e4%bd%8f%e5%b1%85%e5%ad%a6%e5%b0%82%e6%94%bb/</a>
	準備、一部試行	試行	実施	実態調査・改善	実施	III	・「卒業研究」においてデジタルアーカイブの活用について指導している。	
	計画	試行	実施	調査・改善	実施	II	・ドローンの活用については全学年学修履修済みである。メタバースについて、活用計画の作成はできていない。	
見直し案作成	見直し	実施	実施	実施	III	・令和7年度入学生より衣料管理士資格取得を廃止によるカリキュラムの検討を前年度行った上に、令和8年度入学生のカリキュラムを見直した。「被服材料学」を選択から必修とした。	令和8年度入学生カリキュラム	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。 ・「衣服製作プロジェクト」「生活科学専攻研究会」を中心に学生間や地域の方々との関わりを通して人間力、コミュニケーション力の伸長を図る為に実践的な活動を展開する。	計画作成	試行	実施	実施	実施	IV	・「衣服製作プロジェクト」については、1～4年生が相互にコミュニケーションを取り、研究、作品製作に向けての実技指導を行い、充実を図ることに努めた。ステージ発表や展示を通して、総合的な活動が求められる為、人間力、コミュニケーション力の向上につながった。	「衣服製作プロジェクト」 指導資料・成果記録
③新たな資格取得支援を推進する。 ・ICT教育の推進・充実に取組み、指導力を向上させる。そのためマイクロソフトオフィススペシャリストやPC操作などに係る資格取得の支援を検討、推進する。 <b>【建築デザイン専攻】</b>	計画作成	実施	実施	実施	実施	II	・新規資格支援については、余裕がなく、計画作成に至らなかった。 難易度の高いTES「繊維製品品質管理士」資格取得に挑戦し、3年生が短答式3科目合格した。令和8年度残る記述式2問に再チャレンジする。	外部評価委員会資料
①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。								
①-1 デジタルアーカイブとその活用 ・卒業研究での研究企画等での利活用を図る。	実施	実施	実施	実施	実施	III	・4年次になって最初の卒業研究において各指導教員より卒論デジタルアーカイブの見方を指導している。	
①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び ・応用演習II等での建築業界におけるドローン活用事例の学修、メタバースを活用した実習課題成果の発表会等を実施する。	実施・改善	実施・改善	実施・改善	実施・改善	実施・改善	II	・メタバースはまだ活用できない。ドローンの活用事例学修は全学年が学修済みである。	
①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し ・随時見直しを図る。	実施	実施	実施	実施	実施	II	・現在新学科設置準備の中で検討中	
②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。 ・地域連携事業、特別プロジェクト実習等において社会人に必要な人間力とコミュニケーション力を育成する。	実施	実施	実施	実施	実施	III	・各務原市宮雄飛ヶ丘住宅リノベーションプロジェクト、高富商店街リノベーションプロジェクト、10号館前タイル修繕工事、義務教育学校藍東学園渡り廊下、ハートルーム内装提案プロジェクト等	建築デザイン専攻誌
③新たな資格取得支援を推進する。 ・建築DXを支える人材に必要な新たな資格（ドローン、BIM関連等）の取得を促進する。	BIM関連 資格等の 調査	支援講座 試行	実施	調査・改善	実施	III	・令和8年3年生にBIM研修を実施。	実施風景写真・実施アンケート結果
<b>(3) 学修支援体制の拡充のための措置</b> <b>【生活科学専攻】</b>								
①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。 ・ポートフォリオの作成や、長期休暇課題学修後の確認テストを行うことで、学習成果の実感を図る。	計画作成	実践	実施	実施	実施	III	・計画作成し、実施することができた。一部学修が十分でない学生の継続指導がさらに必要である。	ポートフォリオまとめ、確認テスト結果まとめ
②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・授業のe-Learning化、DX化に伴い、本専攻での教育内容の質や学修成果の向上に関する教育研究資料の構築及びアーカイブ化、利活用を図る。	計画作成・ 準備	試行	実施	調査・改善	実施	III	・専攻授業のe-learning化については、科目「被服学概論」（コアカリキュラム）に取組み、「科目学修到達目標と課題」、「タキソノミーテーブル」、「ガイドブック」、「テキスト」の作成を行った。来年度も引き続き、プレゼン資料並びに動画作成に手掛け、いつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタル化を進める予定である。	外部評価委員会資料
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。	計画作成	試行	実施	実施	実施	III	・教育実習支援の充実を検討し、実施することができた。結果が採用	外部評価委員会資料

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・インターンシップ、教育実習に係る科目、講座等の開講年次について検討し、支援体制の充実を図る。</p> <p>④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） （該当なし）</p> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。</p> <p>⑤-1 就職率の維持</p> <p>・専門性を深めた知識・技術の高い家庭科教員養成を行うことで、教員採用試験の合格、および中学・高等学校からの講師依頼を受けることが出来るよう努める。（新卒者が直ぐに教壇に立てるように、力量を身に付ける指導の充実）</p> <p>・企業への就職においては秘書検定受験における、マナーや一般常識の学修、衣服製作プロジェクトで養う人間力やコミュニケーション力の向上、PC関連の資格取得により就職率の維持に努める。</p> <p>⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上</p> <p>・教員採用試験合格に向け、長期休暇期間や、放課後を利用した筆記試験、実技試験、面接の対策講座を、在学生、卒業生を対象に実施する。</p> <p><b>【建築デザイン専攻】</b></p> <p>①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。</p> <p>・主たるコアカリキュラムである設計論・製図、インテリアデザイン論 ・実習において新規導入アプリ等を活用して学修ポートフォリオ及びティーチングポートフォリオによる学習成果の可視化に努める。</p> <p>②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。</p> <p>・卒業研究のアーカイブ化を継続する。</p> <p>③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。</p> <p>・連携先企業を開拓し、中長期のインターンを実施する。</p> <p>④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） （該当なし）</p> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。</p> <p>⑤-1 就職率の維持</p> <p>・資格取得の推進（⑤-2参照）、特別プロジェクト実習及び地域連携事業の推進により就職率100%を目指す。</p> <p>⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上</p> <p>・工業高校出身者（高校で建築士受験にかかる指定科目を履修してきた入学者）および短期大学からの編入学者（短期大学で建築士受験にかかる指定科目を履修してきた編入学者）の在学中での二級建築士合格率100%、それ以外の全学生の在学中の宅地建物取引士もしくはインテリアコーディネーター合格率100%を目指し、取得支援講座の内容を随時見直す。</p>	計画・準備	実施	実施	実施	実施	IV	試験合格につながったインターンシップについての検討は継続とする。	<p>教員採用試験結果、卒業生進路状況 面接対策講座計画書、教員採用試験合格者数 春の対策講座計画書、出席と成果まとめ</p> <p>外部評価委員会資料</p> <p>卒論デジタルアーカイブ</p> <p>外部評価委員会資料</p>
	計画・準備	実施	実施	実施	実施	III	・教員採用試験結果としては現役6・卒業生4名が高校家庭科教員合格し採用となった。 ・教員採用試験対策講座を実施し、教員採用試験合格の成果を得た。 ・4月17日～6月3日までの10日間、個人面接・集団面接・模擬授業を実施した。（4年生対象） ・6月20日は被服製作、6月28日は調理実習の実技対策を生活科学専攻、健康栄養学科の教員希望者、卒業生対象に実施した。（4年生対象） ・2月12日～3月12日の16日間、教員採用試験対策講座を実施した。（3年生対象） ・秘書検定、消費者力検定受験に向けての指導の充実を図ることができた。	
	試行	改善・実施	拡大実施	改善・実施	実施	III	・試行的に一部の設計論・製図の授業において学修ポートフォリオを活用している	
	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	III	・卒業研究のアーカイブ化を行っている。	
	事例調査	連携先開拓	連携先開拓	試行	改善・実施	I	・新学科設置準備において検討予定	
	実施	実施	実施	実施	実施	III	・就職率100%である。	
	改善・実施	改善・実施	改善・実施	改善・実施	改善・実施	II	・令和7年度卒業生において、工業高校出身者5名中2名二級建築士合格、その他の学生8名中4名がインテリアコーディネーターもしくは宅建士に合格。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p><b>【生活科学専攻】</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻の教育目標一つ目の人材育成を目的とした「ベーシックコース」と家庭科教員養成を目的とした「家庭科教員養成コース」の設置を検討し、学びの内容の可視化を図る。「学びの地図」を作成する。</li> </ul> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校「情報」免許、小学校免許など、家庭科免許以外の教職に関する免許取得が見通しを持って取得できるようにする。早期に取り組めるよう1年次からの支援計画を作成する。</li> <li>・ICT教育対応の基礎としての「情報処理技能検定」の取組を強化し、本学学生の実力強化を図る。</li> </ul> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習にもつながるような、e-Learning、DXを用いた授業づくりを60単位内で行う。</li> <li>・e-Learning（オンデマンド）と対面授業（実習も一部含む）を併用した、ハイブリッド型展開を実施する。</li> </ul> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OB家庭科教員を中核に連携を強化するための懇談会を開催する。OB同志及び在学生との交流会を計画する。</li> <li>・入学者の多い高校へのアプローチとして、学生による体験授業の実践交流を行う。</li> </ul> <p><b>【建築デザイン専攻】</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専攻から（仮称）建築デザイン創造学科への改組を目指し、工業高校出身者（高校で建築士受験にかかる指定科目を履修してきた入学者）の入学や短期大学からの編入学者（短期大学で建築士受験にかかる指定科目を履修してきた編入学者）の編入学を促進する（令和7年度より専攻名を住居学専攻から建築デザイン専攻への変更する）。</li> </ul> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築DXを支える人材に必要な新たな資格（ドローン、BIM関連等）の取得を促進する。</li> </ul> <p>①-3 大学の魅力の創出 （該当なし）</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p>	内容・カリキュラムの構成案を作成	試行	実施	調査・確認	改善	III	・昨年度に続いて、コース設置案として素案については作成できたが、令和8年度は専攻内での検討を行い、広報→試行に進むように共有したい。	広報委員会資料
	取得計画のシミュレーション作成	試行	実施	調査・確認	実施	III	・レベルの高いデザインコンテストにおいて、優秀賞を受賞した。	外部評価委員会資料
	計画作成・データ作成	実施・次の遠隔授業データ作成	実施・次の遠隔授業データ作成	実施、調査・確認	実施、調査・確認、改善	II	・コアカリキュラム科目「被服学概論」のe-learning化におけるテキスト作成まで完成。動画作成は次年度も継続作成予定である。（上述）しかし、実験実習を中心とする授業においては、e-learning・DXを用いたり、e-Learning（オンデマンド）化については、実践力や技術習得に課題が多く計画作成は困難である。	学士論文要旨
	交流会計画の作成・交渉	実施	調査・確認	実施	実施	III	・今年度研究会の講演会として教員として活躍する卒業生による講和は開催。高校との連携強化は十分に行えなかった。次年度は計画作成し、高校へのアプローチを具体的にして交流を進めたい。一部卒業研究での連携（アンケート実施）は進めることができた。	外部評価委員会資料
	工業高校、短大への学生募集強化	工業高校、短大への学生募集強化	工業高校、短大への学生募集強化	工業高校、短大への学生募集強化	工業高校、短大への学生募集強化	III	・専攻名の変更を周知しながら学生募集を行い、資料請求者、入学者の増加に繋がっている。	外部評価委員会資料
	BIM関連資格等の調査	支援講座試行	実施	調査・改善	実施	II	・新学科設置準備にあわせ検討を進めていく予定である。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
(該当なし)								
<b>2. 研究ビジョン</b> <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b>  <b>(1) 研究成果の発信</b> <b>【生活科学専攻】</b> ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・卒業研究指導を行う中で、学生とともに内容の深化を図り、他にないブランド化となるよう各教員が企画し論文作成を行う。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・教員の専門分野はもちろん教育内容の質や学修成果の向上に関する研究での外部資金獲得を図る。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・衣食住生活研究センターや長寿健康栄養学センターなどを中心に研究活動を展開する。家政学部としての協同研究課題を設定し推進に努める。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 (該当なし) <b>【建築デザイン専攻】</b> ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・2016年から実施してきた空き家リノベーションの成果とそこから得られた知見を論文もしくは書籍として取りまとめ発表し、空き家リノベーションの地の拠点としてのブランド化を図る。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・空き家リノベーションの研究成果取りまとめのための外部資金獲得を目指す。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 (該当なし) ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 (該当なし)	計画・準備	実施	実施	実施	実施	II	・卒業研究指導からの教員の論文作成に至らなかったが、次年度は各教員が1編以上の論文作成を進める。	
	準備	実施	実施	実施	実施	I	・外部資金獲得に繋がる事業への獲得に至っていない。	
	準備・計画	実施	実施	実施	実施	II	・家庭科教員採用試験対策としての実技（被服・食物）においては、生活科学専攻と健康栄養学科が連携し推進できたが、今後は共同研究課題を設定出来るよう検討したい。	
	成果の取りまとめ	成果の取りまとめ	発表	成果の取りまとめ	成果の取りまとめ	II	・現在3冊の書籍作成途中である。	書籍
	申請	申請	申請	申請	申請	I	・外部資金獲得に繋がる事業への獲得に至っていない。	
<b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b>  <b>(1) 地域コミュニティづくり</b> <b>【生活科学専攻】</b> ① 特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。) ・衣服製作プロジェクトや生活科学研究会活動、伝統文化裁縫コンテス	準備・計画	実施	実施	実施	実施	IV	・昨年度よりスタートした「衣服製作プロジェクト」は、活動成果として、3グループによる学内発表及び展示を実施した。学生による印	「衣服製作プロジェクト」資料

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>トをHPやマスコミを通して活動実績の見える化を図る。広報活動含め、学生が地域に出向く機会を増やし主体となって活動できる仕組みに改革する。</p> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「伝統文化裁縫コンテスト」において岐阜県教育委員会や岐阜教育委員会、岐阜県繊維協会、岐阜ファッション産業連合会の協力を得ながら継続的な連携を図る。</li> <li>岐阜の地場産業である岐阜アパレルとの繋がりをより活性化させる。</li> <li>自治体及び小中高校とのファッション分野、伝統文化分野、生活全般に係る協働を推進するためのプランニングの作成及び広報活動に努める。</li> </ul> <p>(今までに、本庄地区の雨ごい踊り子衣装作成、徹明桜小学校のマーチングバンド制服デザイン画指導、岐阜のアパレルと家庭科教育について等、体験講座の実践)</p> <p>【建築デザイン専攻】</p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家リノベーションの成果(3、(1)、①を参照)を広報に利用する。それまではブランディング事業の報告書とパンフを活用する。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携事業での連携自治体、連携企業等に聞き取り調査を行い、新たな地域連携事業の展開について検討し、実施する。</li> </ul> <p>(2)生涯学習の環境づくり</p> <p>【生活科学専攻】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家政学が育む「生活リテラシー」(よりよい生活を作ろうとする力)を活かした専攻主催の日曜講座(土曜)を企画し、生活に係る講座の展開を図る。</li> </ul> <p>【建築デザイン専攻】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得支援科目等のe-Learning化を進め、卒業生や一般社会人の方のリスキリングを支援する。</li> </ul>							<p>象に残った作品に対するコメント評価を行った。「衣服プロジェクト」作品の一部とファッションデザイン部作品のファッションショー学外(アミューズ岐阜)で実施し、広報活動の一端を担った。</p> <p>III</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「衣服製作プロジェクト」では、地域や企業などとの連携活動を行った。山県市の「和綿プロジェクト」への参加(綿の種蒔き、収穫)や岐阜市のアパレル企業からの生地提供を通じて、様々なデザイン、アイデアの詰まった作品が製作できた。</li> <li>「環境に配慮した生活の提案」をテーマとするグループは、企業見学やワークショップなどのイベント参加を通じて企業連携を図った。</li> </ul>	<p>衣食住生活研究センター 「研究レポート」 新聞記事</p> <p>衣食住生活研究センター 「研究レポート」</p> <p>生活科学研究会誌</p>
	実施	実施	改善・実施	実施	実施	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家リノベーションの新規成果を盛り込んだ専攻のチラシや新学科設置構想を分かりやすく取りまとめたチラシ等を作成し、広報・学生募集に活用</li> </ul>	<p>チラシ</p>
	調査	検討	実施	改善・実施	実施	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜市教育委員会と連携し、令和8年4月に開校予定の藍東学園の渡り廊下のデザイン提案とペイントの実施を行った。</li> <li>新たに山県市とNPO法人と三者連携事業を調査・検討中。</li> </ul>	<p>建築デザイン専攻誌 新聞掲載</p>
	講座企画・準備	試行	実施	調査・改善	実施	I	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画作成に至らなかった。専攻の学びを公開し更に魅力発進の為に検討し、来年度は計画、試行したい。</li> </ul>	
	e-Learning化	e-Learning化	e-Learning化	試行	改善・実施	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材動画の作成に想定以上の時間を要しており、全体として計画どおりの進捗には至っていない状況である。</li> </ul>	<p>建築デザイン専攻-デジタルアーカイブ研究所-岐阜女子大学 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/category/multi-campus-one-digital-university/%e4%bd%8f%e5%b1%85%e5%ad%a6%e5%b0%82%e6%94%bb/">https://digitalarchiveproject.jp/category/multi-campus-one-digital-university/%e4%bd%8f%e5%b1%85%e5%ad%a6%e5%b0%82%e6%94%bb/</a></p>
4. 組織・運営体制 健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>持・改革】</b></p> <p>(1)～(3) 該当なし</p> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p><b>【生活科学専攻】</b></p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <p>・就職率や、就職先など出口を明確にすることで定員充足に努める。学生面談の充実</p> <p><b>【建築デザイン専攻】</b></p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <p>・1. 教育ビジョン (4) 学生の確保のための措置 ①-1、①-2による。</p> <p><b>(5) 教職員の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <p>・後継者となる専任教員の確保に努める。【生活科学専攻】</p> <p>・専任教員及び非常勤講師の確保に努める。【住居学専攻】</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 (該当なし)</p> <p>③FD・SDを推進する。 (該当なし)</p>	明確化案 作成	実施	実施	実施	実施	III	・家庭科教員採用試験結果によるPR効果はあったが、入学者増には繋がっていない。	広報資料 外部評価資料(面談記録まとめ)
	教員の確保	教員の確保	教員の確保	教員の確保	教員の確保	III	・令和8年度、准教授1名採用。繊維・被服材料学分野、被服構成学分野の実験・実習が担当できる人材の確保が出来た。	主任会議資料
						III	・新規専任教員1名の採用、また新たな非常勤講師として1名の採用	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・管理栄養士・栄養士養成課程以外の資格取得支援科目の e-Learning 化を図る。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b>                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。                      ①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・講義資料等をアーカイブ化し、主体的活用を推進する。                      ①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・デジタル、AI に対応し、社会ニーズに応えられる人材を育成することとし、データサイエンスを駆使し、健康情報の発信を可能にする。                      ・メタバース内に講座を配置し、健康情報の発信も試みる。                      ①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し</p> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。</p>	選択科目 遠隔化	検証	検証	評価・改善	評価・改善	III	昨年度整備した科目を遠隔講座や学生の復習に一部活用し、不具合は生じていない。	Multi Campus One Digital University Gifu Women's University 健康栄養学科ページ ( <a href="https://mcodeu.jp/category/%e5%81%a5%e5%ba%b7%e6%a0%84%e9%a4%8a%e5%ad%a6%e7%a7%91/">https://mcodeu.jp/category/%e5%81%a5%e5%ba%b7%e6%a0%84%e9%a4%8a%e5%ad%a6%e7%a7%91/</a> )
	資料(Ⅰ) に連動の デジタル 化	推進 資料のデ ジタル化	評価、 資料の改 善 推進	評価、 資料の改 善 推進	評価、 資料の改 善 推進	III	上記（1）のデジタル化した授業資料を活用できた。	Multi Campus One Digital University Gifu Women's University 健康栄養学科ページ ( <a href="https://mcodeu.jp/category/%e5%81%a5%e5%ba%b7%e6%a0%84%e9%a4%8a%e5%ad%a6%e7%a7%91/">https://mcodeu.jp/category/%e5%81%a5%e5%ba%b7%e6%a0%84%e9%a4%8a%e5%ad%a6%e7%a7%91/</a> )
	科目の選 定 情報収集	試行 調査	実施 分析	検証 発信情報 精査	改善 情報発信	III	健康情報を発信するプロジェクトを試行中である。	
	講座の選 定	講座試料 のデジタ ル化	講座準備	試行	検証	III	メタバース内に配置する講座の準備を進めている。	
	社会ニー ズ収集	DP見直し	DP改善	CP見直し	CP改善	III	社会ニーズに合わせて新学科の設置を断念し、社会ニーズに合うようにディプロマ・ポリシーを検証した。	外部評価委員会に提出した3ポリシー案
	プロジェ	プロジェ	プロジェ	プロジェ	プロジェ	III	学生主体のプロジェクト活動の支援を行い、活動内容を評価した。	食物栄養と食文化令和7年

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・プロジェクト活動における主体的学びの中で、人間力、コミュニケーション力の伸長を目指す。</p> <p>③資格取得支援を推進する。</p> <p>・ <b>社会に有用な資格を選出し、学生の学びを支援する。</b></p> <p><b>(3) 学修支援体制の拡充のための措置</b></p> <p>①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。</p> <p>・国家試験対策室主導で、管理栄養士国家試験のための支援講座における学修達成度を可視化（ポートフォリオ）し、指導に活用する。そして、最終目標である資格を取得する支援につなげる。</p> <p>②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。</p> <p>・アーカイブ化した資料を活用するための組織を設置し、利活用を推進する。</p> <p>③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。</p> <p>・管理栄養士養成のための臨地実習において、学内指導教員を組織化して情報共有し、学生の学修意欲及び学修効果が上がるよう不断の見直しを行う。</p> <p>④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進）</p> <p>・アドバイザー、学年主任がチームになり、随時学費納入状況を財務部と共有し、滞納が見られた場合は速やかに適切な奨学金制度を紹介、推奨する。</p> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。</p> <p>⑤-1 就職率の維持</p> <p>・食物栄養学会、学生プロジェクト等の教員組織を活用し、早期から将来を意識しながら学ぶ環境作りに努め、希望する進路に合わせた資格取得支援により専門職に就けるようキャリア支援センターとともに支援する。</p> <p>⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上</p>	<p>クト運営の支援</p> <p>資格の選定</p> <p>実施・評価</p> <p>推進組織の設置</p> <p>組織整備 情報共有 指導見直し</p> <p>情報共有 対応</p> <p>実施・評価</p> <p>分析・改善</p>	<p>クトの評価</p> <p>支援試行</p> <p>改善・実施・評価</p> <p><b>資料収集</b></p> <p><b>学生情報共有</b></p> <p>情報共有 対応</p> <p>改善・評価</p> <p>分析・改善</p>	<p>クトの改善</p> <p>支援実施</p> <p>改善・実施・評価</p> <p><b>資料収集</b></p> <p><b>学生情報共有</b></p> <p>情報共有 対応</p> <p>改善・評価</p> <p>分析・改善</p>	<p>クト運営の支援</p> <p>支援評価</p> <p>改善・実施・評価</p> <p><b>資料収集</b></p> <p><b>学生情報共有</b></p> <p>情報共有 対応</p> <p>改善・評価</p> <p>分析・改善</p>	<p>クトの評価・改善</p> <p>支援改善</p> <p>改善・実施・評価</p> <p><b>活用開始</b></p> <p><b>学生情報共有</b></p> <p>情報共有 対応</p> <p>改善・評価</p> <p>分析・改善</p>	<p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>既存の資格（製菓衛生師）取得支援を強化し、令和8年度より全学展開をする準備をした。</p> <p>卒業生の弱点から作成した一問一答テストの結果を各自が補完し、復習に活用した。</p> <p>アーカイブ化するために資料を収集中。</p> <p>多様化した学生の情報を共有し、今後の指導材料とした。</p> <p>経済的困窮による学費滞納者はなかったが、学生支援のための情報共有をした。</p> <p>食物栄養学会にてOG講演会を開催し、就職と資格取得に対する学修意欲向上に努めた。</p> <p>国家試験対策を計画的に実施し、例年通りの勉強会も開催した結果、</p>	<p>度（学科年報）</p> <p>製菓衛生師ダブルスクール告知資料</p> <p>一問一答問題例</p> <p>会議録</p> <p>会議録</p> <p>食物栄養と食文化令和7年度（学科年報）</p> <p>食物栄養学研究法スケジュ</p>

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・国家試験対策室主導で記憶定着アプリ等の活用、対策講座等を実施して、管理栄養士国家試験合格者を<b>全国平均</b>以上を目指す。</p> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>①新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <p>・他学にはない食と農を融合した学びを提供し、定員確保を目指す。</p> <p>①-2 資格の取得支援</p> <p>・社会に有用な資格を選出し、学生の学びを支援する(1-(2)-③に同じ)。</p> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <p>・主体的活動を支援し、自ら健康情報を発信できる人材育成を目指す。</p> <p>②新たな取組により高校生や編入希望学生の支援をする。</p> <p>・高校生や編入希望学生の入学前科目履修を可能にする。</p>	対策講座 実施・評価	対策講座 実施・評価	対策講座 実施・評価	対策講座 実施・評価	対策講座 実施・評価	III	合格率が80.9%になり、全国平均の79.3%を上回ることができた。	ール
	定員減届 出 新学科助 成金申請	新科目開 講準備	新科目開 講	教授内容 の見直し	改善	III	定員充足率が不十分であるために新学科設置を断念したが、現学科内の科目の見直しをして、新たに農に関する科目を開講できるように準備を進めた。	新規科目(農学概論)のシラ バス
	資格の選 定	資格の見 直しとニ ーズに合 わせた科 目選定	資格の見 直しと関 連科目開 講	資格の見 直しと関 連科目評 価	資格の見 直しと関 連科目評 価	III	ニーズの高い資格として製菓衛生師を挙げ、広報に繋げる準備をした。	製菓衛生師ダブルスクール 告知資料
	プロジェ クトの継 続	プロジェ クトの継 続指導	プロジェ クトの継 続指導	プロジェ クトの継 続指導	プロジェ クトの継 続指導	III	学生主体のプロジェクトを継続できた。	食物栄養と食文化令和7年 度(学科年報)
	連携校選 出	入学前科 目履修を 支援	改善・検証 実施	実施	実施	III	編入希望学生のニーズに応え、2月に開講された保育士講座の受講支援ができた。	
<p><b>2. 研究ビジョン</b></p> <p><b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b></p> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。</p> <p>・研究活動を奨励し、各教員が年1報以上の論文作成を目指す。</p> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。</p> <p>・財団を含めた事業に応募し、外部資金獲得を目指す。</p> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。</p> <p>・食と住生活やアーカイブ、地産地消と観光などの他分野や長寿健康栄</p>	論文数確 認 作成促進	論文数確 認 作成促進	論文数確 認 作成促進	論文数確 認 作成促進	論文数確 認 作成促進	III	各教員の業績をまとめ、冊子を発行する準備を進めた。	
	財団等調 査	準備	応募、評 価、	応募、評 価、	応募、評 価、	III	外部資金獲得のため、資金確保できる財団等を検討し、準備を進めている。	
	連携を模	調査・研究	調査・研究	検証	地域発信	III	長寿健康栄養学センターと連携して外部と協働した活動、調査研究を	食物栄養と食文化令和7年

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>養学センター、衣食住研究センターなど各種センターと協働で研究を進め、地域発信を試みる。</p> <p>④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。</p> <p>・科学的・論理的思考を持った管理栄養士・栄養士を養成するため、卒業研究の充実に図るとともに、研究力を向上し、研究科に繋げる。</p>	索					IV	進めることができた。	度（学科年報）  研究科委員会（持ち回り）資料
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>（1）地域コミュニティづくり</b></p> <p>①特徴的な取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。）</p> <p>・学生プロジェクトを学外に展開し、ホームページ上で発信する。</p> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。）</p> <p>・長寿健康栄養学センター等を介して、地域との連携を図る。</p> <p><b>（2）生涯学習の環境づくり</b></p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <p>・健康や体質改善に関する栄養素やその摂取方法、食品表示など学外に発信する講座の開講や長寿健康栄養学センター主導の講座に参画する。</p>	外部展開 評価・改善 HP発信	外部展開 評価・改善 HP発信	外部展開 評価・改善 HP発信	外部展開 評価・改善 HP発信	外部展開 評価・改善 HP発信	III	プロジェクトから卒業研究に発展させ、学外に展開した。	食物栄養と食文化令和7年度（学科年報）
	ニーズ調査	情報精査 実施・評価 ・改善	実施・評価 ・改善	実施・評価 ・改善	評価・改善	IV	卒業研究を地域（美濃市，山口市）に展開できた。	食物栄養と食文化令和7年度（学科年報）
	市民ニーズの収集	講座の実施 評価	講座の改善 評価	講座の改善 評価	講座の改善 評価	IV	長寿健康栄養学センターの活動として地域発信する講座を開講した。	食物栄養と食文化令和7年度（学科年報）
<p><b>4. 組織・運営体制</b> <b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b></p> <p><b>（1）経営基盤の確保のための措置</b></p> <p>①定員管理を適正に行う。 （該当なし）</p> <p>②収益事業を推進する。 （該当なし）</p> <p>③外部資金の確保に努める。 ・公的資金受給に向け、情報収集と準備を進める。</p>	情報収集	申請・実施	評価・改善	評価・改善	評価・改善	II	準備を勧め申請をしたが、採択されなかった。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
<p>(2) ステークホルダーとの連携</p> <p>①大学情報を効果的に発信する。 (該当なし)</p> <p>②学内外からの大学支援を依頼する。 (該当なし)</p> <p>(3) 計画的基盤整備</p> <p>①環境保全、人権、安全に配慮し、計画的に整備する。 ・教育に必要かつ有効な PC や調理機器、実験機器等の設備を計画的に整備する。</p> <p>②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・活性化費を活用し、老朽化に伴う研究機器の更新を進める。</p> <p>(4) 学生の確保のための措置</p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率 80%を目指す)に努める。 ・<b>高校生や編入希望学生</b>の入学前科目履修を可能にする。</p> <p>・退学者の減少のために、アドバイザー制度を不断に見直す。</p> <p>(5) 教職員の確保のための措置</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 ・<b>食と農の学びを提供する</b>ために、適切な教員を確保する。</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 ・若手教員の研究支援</p> <p>③FD・SDを推進する。 ・専門分野ごとに、授業研究、評価、改善をしていく。</p>	準備							
	効果的設備の調査	計画的整備	計画的整備	計画的整備	計画的整備	III	老朽化した実験室、給食管理実習室のスチームコンベクションオーブンを更新した。	稟議書の写し(支払書は財務管理)
	機器点検・整備	機器点検・整備	機器点検・整備	機器点検・整備	機器点検・整備	III	給食管理実習室の機器整備	稟議書の写し(支払書は財務管理)
	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	III	編入希望学生のニーズに応え、2月に開講された保育士講座の受講支援ができた。	
	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	実施・検証	II	毎月の学科会議後に退学者減少のための学生の情報共有をしたが、退学者を減らすに至らなかった。	会議録
	教員確保	教員資質向上	教員資質向上	教員資質向上	教員資質向上	III	令和7年度より、農学を教授できる教員を招聘し、論文指導をいただいている。	紀要別刷
	研究指導	助教昇格 研究指導	研究指導	研究指導	研究指導	III	助手の論文投稿は叶わなかったが、研究科への進学に結び付けられた。	研究科委員会(持ち回り)資料
	授業研究 評価・改善	授業研究 評価・改善	授業研究 評価・改善	授業研究 評価・改善	授業研究 評価・改善	IV	学生による授業評価を行うとともに、科目の開講年次を見直し、系統的に学ぶことができるよう改善した。	令和8年度カリキュラムフロー
	5. 点検評価 自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携							

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>(1) 内部質保証の継続のための措置</p> <p>①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。</p> <p>・授業評価アンケートを活用し、主体的学びや達成感を得られる授業に改善していく。</p> <p>②教学 I R 体制を充実する。</p>	アンケート実施 授業分析	アンケート実施 授業改善	アンケート実施 授業評価	アンケート実施 授業改善	アンケート実施 授業評価	Ⅲ	学生による授業評価を行い、改善策を検討した。	授業評価および改善策報告書

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b></p> <p><b>【文化創造学専攻（書道）】</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・座学の科目を中心にして e-learning の充実を図る。</p> <p><b>【文化創造学専攻（観光）】</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・e-learning 科目の充実を図る。</p> <p><b>【デジタルアーカイブ専攻】</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・各年度計画に沿って、対応できる科目を徐々に増やす。</p> <p><b>【初等教育学専攻】</b>                      ・社会構造の変化（society 5.0 SDGs DX 多様性と多様な幸せ）を見据え、培ってきた定型的・基盤的、実践力に加えて、学習観・授業観の転換を図っていくことのできる、創造型の人材の育成を求めていく。                      ・教育DX時代に対応した学びを創造できる人材の育成をする。                      ・本専攻が構築し取り組んでいる「人材育成構想 EGGプラン」の主軸とすると、「理論と実践との往還による人材育成」に継続して取り組み、教育現場で力の発揮出来る人材を育成する。</p> ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。 ・現在行っている沖縄校の遠隔授業実践を、学習者、教授者の双方から見直しをして、授業効能の高い遠隔教育を追究していく。 ・60単位の授業科目を、小学校免許取得の科目におき、さらに幼稚園免許に関する科目のeラーニングを推進していく。 <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b></p> <p><b>【文化創造学専攻（書道）】</b>                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロ</p>	準備	実施	継続	見直し	実施	II	3科目 e-Learning ができるようになった。2026年度も e-Learning の作成に努める。実技科目ではその作成が難しい。	シラバス一覧表
	準備	準備	実施	継続	継続	II	25年度末の時点で、作成中の科目がある。	シラバス一覧表
	実施	実施	実施	実施	見直し	IV	①令和8年度の e-learning 構築科目（4科目）について作成し、過年度分とあわせ、29科目を構築済とした。	MultiCampus One Digital University ウェブサイト <a href="https://digitalarchiveproject.jp/multi-campus-on-e-digital-university/">https://digitalarchiveproject.jp/multi-campus-on-e-digital-university/</a>
		実施	実施	実施		II	人材育成「EGGプラン」を年間にわたり推進してきた理論学修の授業の見直しをPDCAサイクルで行い改善を図っている	月ごとの専攻会議録
	実施	実施	実施	見直し	実施	IV	理論学習はもとよりのこと、学年次毎の現場体験に因る実践的な学修を充実させている	各年次の実践活動実施要項
	計画	実施	継続	継続	継続	III	第2期から遠隔教育の推進の実績を、学習者側に立って学びやすいように提示資料等の追加をして効果的な内容にして実施した。継続中。	遠隔による上進講座推進
						II	幼稚園の科目のeラーニング化は沖縄校の学生のニーズに従い推進しつつある。継続中。	
						II	古典のできるだけ美しい図版をデジタルアーカイブ化する。半紙の臨書例を年々増やし、サイボウズ上で学生に提示している。(現在約1,100枚) 教員の機器操作の経験不足が課題である。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>マ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p> <p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書道の古典の図版をデジタルアーカイブ化して学生に提示すると共に、半紙の臨書例もデジタルアーカイブ化して学生の学修の一助とする。</li> </ul> <p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メタバースを活用する。</li> </ul> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX推進に対応し、各ポリシーの見直しを行う。</li> </ul> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品制作の集中力また臨書力を通して人間力高め、作品鑑賞時にその感想を言葉で述べることによりコミュニケーション力の伸長を図る。</li> </ul> <p>③新たな資格取得支援を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな資格に関する幅広い情報を提供する。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p>	準備	実施	継続	見直し	実施		e-learning 報告書	
	準備	準備	実施	継続	継続		委員会報告書	
	準備	実施	継続	継続	継続		委員会報告書	
	準備	実施	継続	継続	継続		作品講評会	
	準備	実施	継続	継続	継続		資格一覧表	
<p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する委員会で検討する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	III	e-learning 報告書	
<p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する委員会で検討する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	III	委員会報告書、シラバス	
<p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する委員会で検討する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	III	委員会報告書	
<p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する委員会で検討する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	IV	委員会報告書、シラバス	
<p>③新たな資格取得支援を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな資格に関する幅広い情報を取得する。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	見直し	III	資格一覧表・リーフレット	
<p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p>								
<p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブの各種法改正などに対応し、各ポリシーの見直しを行う。</li> </ul>	実施	継続	継続	見直し	実施	II	①-1 新学科構想に対応した見直しが必要であるため、今年度も見直しおよび新たなポリシーの策定は保留した。	
<p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムポリシーに沿った学びを進める。</li> </ul>	実施	継続	継続	継続	継続	II	①-2 ①-1に同じ。	
<p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し</p>								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・DX推進に対応し、各ポリシーの見直しを行う。</p> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。</p> <p>・各資格科目の実習、演習科目においてコミュニケーション力の内容充実を図る。</p> <p>③新たな資格取得支援を推進する。 (該当なし)</p> <p><b>【初等教育学専攻】</b></p> <p>①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開し教育DX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。教育の今日的課題に適応する学修内容に向け 不断に見直しをする</p> <p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用</p> <p>・教育に関する研究等で 過去の集積からの知見を得て、これからの教育に役立てていく。</p> <p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び</p> <p>・理科教・社会などの教科教育法で、ドローンによる教材作成を取り入れ、授業力向上を図る。</p> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し</p> <p>・教育DXの推進による教育力の向上を求め続け、ディプロマポリシーに反映させて教育内容を高めていく。</p> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。</p> <p>・授業科目で、基礎学力としての言語表現力の一層の充実をはかるとともに、実践力を育成するミュージカル活動等の活動内容をより充足させて双方からの充足による教育の推進をしていく。</p> <p>・3年次からのディアルシステムの導入を図り、教育現場に精通した実践力を養成する。</p> <p>③新たな資格取得支援を推進する。</p> <p>・学校教育専修の学生には 幼稚園免許状の取得を推奨し、学び内容を広げる意識を育てる。</p> <p><b>(3) 学修支援体制の拡充のための措置</b></p> <p><b>【文化創造学専攻(書道)】</b></p> <p>①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。</p> <p>・「高大展」「学内展(半切・大作)」「書法展」の各講評会において適切な指導をして、作品の向上が実感できるように図る。</p> <p>②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。</p> <p>・サイボウズの充実化を図る。</p>	実施	継続	見直し	実施	継続	II	①-3 ①-1に同じ。	<p>長期休暇の学修計画一覧</p> <p>卒業研究要旨集</p> <p>理科教科教育法での資料</p> <p>外部評価委員会資料、見直し後のポリシー</p> <p>外部評価委員会資料</p> <p>活動の実績表 専攻会議録</p> <p>学修成果報告書</p> <p>サイボウズ</p>
	実施	継続	継続	継続	継続	II	② ①-1に同じ。	
	計画	実施	継続	見直し	継続	III	自主学修の推進に力を入れ長期休みの充実を図った。進路指導と併せて。	
	計画	実施	継続	見直し	継続	IV	卒業研究の指導に於いて、先行研究の調査では、常にアーカイブされている過去の研究に目を通す指導をした。卒業研究に関わり活用が進んだ。	
	実施	実施	見直し	実施	実施	III	文化創造学部として進めてきているドローン、メタバース等を取り入れた授業を理科授業法等で取り組んできている。 教科教育法の指導に於いて、学修の方法の拡大を、IT機器の活用ができる力をつけることともに指導している。	
	実施	実施	実施	見直し	実施	III	カリキュラム・ポリシーの見直しを行い、専攻教員で共通理解を図り、教育の方法・技術の授業や各、教科法で実践しつつある。ポリシーの見直しを、学生の実態から行った。	
	実施	実施	見直し	実施	実施	IV	専攻の人材育成目標に人間力、対話力の育成を置き、具現取り組みとして言語力に関わる授業やミュージカル活動を充足させて実施してきている。	
	計画	見直し	実施	見直し	実施	II	ミュージカル活動・農研活動を2大活動として実践力を養った。 専攻内教員の共通理解を図るところに至っていない。一部の専門教員の範囲でとどまっている。	
	実施	実施	実施	実施	実施	III	学年はじめのガイダンス時には、巾を広げて学ぶことをガイダンスしている。学校専修学生の幼稚園免許状取得の指導強化を図っている。	
	準備	実施	継続	継続	継続	III	「高大展」および「書法展」において各2回の講評会を実施しており、各回の欠席者は数名であり、成果を上げつつある。「学内展(半切・大作)」では、各期「講評会→作品決定会→陳列、を一週おきに実施するローテーションが確立した。	
	実施	継続	継続	見直し	実施			

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・教育実習の事前支援を充実させ、インターン受け入れ先も積極的に開拓する。	実施	継続	継続	継続	継続	IV	継続：メナード青山リゾートに有償インターンシップ、24.25年度夏に岐阜市（行政）のインターンシップ	就職先一覧表  対策講座一覧表  学修成果報告書・ホームページ サイボウズ  インターン先一覧表など
④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） ・学内の「特別奨学金」を推奨し、また書道塾や筆耕等のバイトを紹介する。	実施	実施	継続	継続	継続			
⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す ⑤-1 就職率の維持 ・教員採用試験に合格できなかった学生には、常勤講師・非常勤講師の紹介を積極的に行う。	実施	継続	継続	継続	継続			
⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・対策講座を時間割内および放課後に設けて向上を図る。	実施	継続	継続	継続	継続			
【文化創造学専攻（観光）】 ①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。 ・成果をホームページに載せて、学生の動機付けを高める。	準備	実施	継続	継続	見直し			
②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・サイボウズの活性化を図る。	実施	継続	継続	見直し	実施			
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・インターン受け入れ先を積極的に開拓する。	実施	継続	継続	継続	継続			
④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） ・学生に相応しいアルバイト先等の紹介を行う。	準備	実施	継続	継続	継続			
⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。 ⑤-1 就職率の維持 ・就職指導を積極的に行う。	実施	継続	継続	継続	継続			
⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・学部及び各専修を連携して、講座・集中講義を行う。	実施	継続	継続	継続	継続			
【デジタルアーカイブ専攻】 ①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。 ・高校への手紙の取り組みなどを学修成果ポートフォリオとしてとらえ、進める。	実施	継続	継続	継続	継続	III	①前期と後期に、学生自身に頑張ったことや希望する進路等をまとめる取り組みを行った。	高校へのお手紙様式2025版
②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・博物館実習において木田教育研究資料のデジタル化の取り組みを継続する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	②博物館実習の学内デジタルミュージアム実習において、木田教育研究資料のデータ入力等を行った。今年度は棚番号3～4の一部を実施した。	実習カリキュラム一覧
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・学生面談などで、学生の状況を把握、支援する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	③デジタルアーキビスト、司書、学芸員の各資格に関する実習を継続的に実施した。	カリキュラム一覧
④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） ・学生面談などで、学生の状況を把握、支援する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	④支援機構給付奨学金の判定や提出資料の作成補助等を行った。	サイボウズ「給付奨学金申込者情報」
⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
⑤-1 就職率の維持 ・現在の高い就職率を維持する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	⑤-1 過去3年間の就職率は100%を維持している。	外部評価委員会資料
⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・現在の高い資格取得率を維持する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	⑤-2 専攻の主要資格の取得率はいずれも95%以上を維持している。	外部評価委員会資料
<b>【初等教育学専攻】</b>								
①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。	実施	実施	実施	実施	実施	III	「教育実習、事前・事後」の授業の充実を図り、さらに学校の実習に向かう学生に当たって、必要とする力の不足する者には個別指導を実施し、現場実習が円滑に進むように指導した。25年度もこの強化を図った。教養演習 教職リサーチの指導の充足は図れたが、教師力とつなげる指導の充足が課題である。学生に都度都度の実績を記録させ意識化させた。本専攻としての研究資料のサイボウズでのアーカイブ化までには手が届かなかった。卒業研究に当たっては、取り組みの初期段階の指導で、学部としての指導の下に、実践化できた。	教育実習指導資料
・保育 教育現場での指導力を実習学校の評価にのみに任せない評価法を追究し 学生の教育実践力意識を高めていく。	実施	実施	実施	見直し	実施	III		
・「教養演習。“教職リサーチ”の評価法を学生の実践力意識につなげていく。	計画	見直し						
① 教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・現存のサイボウズ内でのアーカイブ資料の利用促進を図る。 ・過去の在学生の卒業論文などアーカイブされている資料を読み解く実践の場を持って活用力を高めていく。	計画	実施	実施	実施	実施	III		
③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・現在行っている 各種施設の体験学習の取り組みせ方を、学生の実践力向上に結びついていくように段階化の見直しを行う。 ・中学校の現場体験活動を位置づけ、中学校の授業実態 や生徒理解を深める取り組みをしていく。	計画	実施	実施	見直し	実施	III	保育・学校等での自主的インターンシップへの意欲は持てているが、専攻内での取り組み活動に時間をかける余裕がない状況であった。中学校現場体験を希望する者には、計画化して実施に移した。25年度も実施した。	実施計画表の資料
④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） ・時節毎のアドバイザー面談の内容に、このことを意図的に取り込み、学生生活の支援をしていく。（過度なアルバイトの指導を含む）	実施	実施	実施	実施	実施	IV		
⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。	実施	実施	実施	実施	実施	IV	年3回のアドバイザーとの面談に於いては、常に学生の生活の実情を把握する内容で話をし、生活安定の指導をした。各学期に、取得免許と必要単位について指導し、学習状況の充実を図ってきた。90%以上が専攻に沿う路選択をしている。毎月の専攻会議で、学生の実態報告を行い、教員が共通理解の下に学生の指導を行っている。	専攻会議記録
⑤-1 就職率の維持 ・時節毎の面談で、常に進路への意識を確認し、進路を見失わない方向付けをしつつ、専攻内で 毎月の専攻会議で共有化。	実施	実施	実施	実施	実施	IV		
⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・長期休暇の自己学習の促進を図ること。専攻での就職対策講座の設定を継続していく。	実施	実施	実施	実施	実施	IV	年間の暦の中に学修すべき内容を示し、長期休暇等の取り組み内容を明示して、取り組み状況の確認も行っている。	配布の年間学修計画表
<b>（4）学生の確保のための措置</b>								
<b>【文化創造学専攻（書道）】</b>								
①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。						III	「全国書道展」への応募数が2万点を超え、新記録を達成している。本展覧会での入賞を機に本学への進学を決めた新入生もいる。「日展」にはR6年度に2名が入選し、「読売書法展」・「毎日書道展」にも多数の学生が入選している。	学生便覧
①-1 学科等の改組・改編 ・授業科目の精選、若手教員の増員。	準備	実施	継続	見直し	実施			
①-2 新たな資格の取得 ・授業内容と関連させた資格取得の徹底。	準備	実施	継続	見直し	実施			
①-3 大学の魅力の創出								資格取得者数の一覧

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・「全国書道展」の応募数増加。公募展への出品奨励。書道パフォーマンスを通して地域との連携。ホームページの充実。</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <p>・高校生の展覧会、錬成会へ講師としての依頼を受ける。</p> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <p>・授業数の軽減、教員の適材適所の配置。</p> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <p>・既存の資格の取得の強化。</p> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <p>・ホームページの充実・出前講義。</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <p>・出前講義の充実。</p> <p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <p>・学部学科の改組計画に沿った人員・カリキュラムを整備する。</p> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <p>・該当なし</p> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <p>・e-learning化等、対面以外の学修方法を整備、実施する。</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <p>・高等学校とのデジタルアーカイブの取り組みを継続する。</p> <p>【初等教育学専攻】</p> <p>①新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <p>・改組の予定はしていない。</p> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <p>・カリキュラムの現状からも、予定はできない。</p> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <p>・個別最適の学習方法を追究し、いつでも・どこでも学べる（eラーニング等）その実践化を図っていき、成果・課題を明確にして 教育を推進する。</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <p>・近隣の岐阜城北高校と 連携協定を締結し、教育の交流と人材の育成をより堅固にしていく取り組みを行う</p> <p>・高校への出前授業を、学びへの期待感・魅力を主眼に行いつつ、広報</p>	実施	継続	継続	継続	継続	<p>III</p> <p>III</p> <p>IV</p> <p>II</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>II</p> <p>I</p> <p>I</p> <p>IV</p>	<p>①-1 改組計画中のため、人員等は現状では整備しきれていない。</p> <p>①-3 大学全体の取り組みに従い、過年度に引き続き e-learning 化を進めた。</p> <p>② 高等学校でのデジタルアーカイブ講座を実施した。</p> <p>教育の今日的課題に対応できる学生の育成のあり方を検討し、チラシに反映させ、広報活動に役立てた</p> <p>学生の学修環境から、eラーニングの必要性も薄い状況にあり 敢えて取り組む必要が今年度は生じなかった。沖縄生に対しては充足を図って実施している。24年度</p> <p>教育内容のガイダンス活動は行っているが、出向いていくゆとりが欠け、実施できなかった。25年度実施に移せなかった。</p> <p>高校生の学びの喚起に繋ぐ広報活動には時間の許す限界まで関わって</p>	<p>チラシ・ホームページ 応募要項</p> <p>県内高校の一覧表</p> <p>学生便覧</p> <p>資格取得者数の一覧・</p> <p>リーフレットなどのDM</p> <p>広報活動 実績資料一覧</p> <p>MultiCampus One Digital University ウェブサイト <a href="https://digitalarchiveproject.jp/multi-campus-on-e-digital-university/">https://digitalarchiveproject.jp/multi-campus-on-e-digital-university/</a></p> <p>地域連携一覧表</p> <p>個々の成長を中核に据えた チラシ</p> <p>広報活動の実績資料</p>
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	実施	継続	見直し	実施	継続			
	準備	実施	継続	見直し	実施			
	準備	準備	準備	準備	実施			
	実施	継続	見直し	実施	継続			
	継続	継続	継続	見直し	実施			
	施	実施	見直し	継続	継続			
実施中	改善	充実を	継続	成果				
計画	計画	計画	実施	成果				
実施	交流 実	実施	実施	成果 実				

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
活動に結びつく内容として見直しをしていく。		施			施		高校生の進路に寄与する活動を行った。昨年度と同様に実施。	
<b>2. 研究ビジョン</b> <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b>  <b>(1) 研究成果の発信</b> <b>【文化創造学専攻（書道）】</b> ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・作成した論文を社会人・学生が聴講する「岐阜女子大学書写書道研究会」で発表する。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・科学研究費補助金への応募に挑戦する。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・アナログの「書道」ではあるが、デジタルアーカイブ化する研究を展開する。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・「岐阜女子大学書写書道研究会」を年一回実施し、地域への書道文化の発信に努める。大学院教育の充実のために研究会を立ち上げる。 <b>【文化創造学専攻（観光）】</b> ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・優秀な論文の表彰を行う。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・教員が応募する際に、学生を協力者にする。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・学部の仕切りを超えた研究を展開する。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・フィールドリサーチを重視した卒業論文、観光関連業界でのインターンシップの充実。 <b>【デジタルアーカイブ専攻】</b> ①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・研究所、研究センターと協力し、論文投稿を推進する。 ②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・科学研究費補助金への応募を推進する。 ③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・学部全体でのメタバース、ドローン等の教育活動に取り組む。 ④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・スクーリング科目の内容を見直し、充実させる。  <b>【初等教育学専攻】</b> ・文化創造学の主宰する研究誌「カリキュラム開発誌」への投稿を積極	準備	実施	継続	継続	継続	II	「岐阜女子大学書写書道研究会」を発足させることができた。今後は近隣の高校の先生および他大学へ周知させることが課題である。	科研応募者一覧表  紀要などの論文一覧表  論文
	準備	実施	継続	継続	継続	I	25年度中、学生の論文を外部に公開していない。	表彰者一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	I	25年度中、行っていない。	科研応募者一覧表 紀要などの学術雑誌の論文一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	タイの大学との交流の補助	卒業論文
	準備	実施	継続	見直し	実施	IV	学部論文集	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	①文化情報研究センターやデジタルアーカイブ研究所と協力し、研究誌への論文投稿等を行った。	デジタルアーカイブ年報、文化情報研究誌
	実施	継続	継続	継続	継続	II	②科学研究費補助金等へ採択され研究を進めている所属教員は増えたが、継続的に増やす必要がある。	
	準備	実施	継続	継続	見直し	III	③メタバース、ドローンに関する授業科目を開講している。	カリキュラム一覧
	準備	実施	継続	継続	継続	II	④スクーリング科目を新カリキュラムに沿って整備したが内容の見直しまでには至らなかった。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス				
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)							
<p>的に行う教員意識を旺盛にしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻教員共同による取り組みなどから、共同研究を一層活発化させていく。</li> </ul> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専攻会議の議題内容に 研究の議事を置き、研究の交流を図りながら、研究への追究を高めていく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生の卒業研究に即しながら、教員の専門性から、共に執筆していくことに取り組む。学部の研究誌「カリキュラム研究誌」への投稿を促進していく。</li> </ul> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科研費による研究推進を 実績者の指導を受けて増幅していく。</li> </ul> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルアーカイブ専攻との連携で、教育DXの先進研究を推進を図っていく。</li> </ul> <p>④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早期履修制度を魅力あるものにしていく授業内容の充実に図っていく。</li> <li>「教育実習指定校」との連携を密にし、実習終了後も、教育実践の場として実習校に置いて課題追究を継続する意欲ある人材を育成していく。</li> </ul>	実施	実施	実施	実施		II	<p>カリキュラム開発誌への投稿、本学の研究誌への投稿に積極的に向かう意識作りが必要であり、一部教員に限られた取り組みで終始した。26年度、一部教員だけでなく必要がある段階。</p> <p>専攻会議議題に教員の研究を誘う事項が設定できなかった。学生育成の内容に追われすぎていた嫌いがあった。農業研究に於いて冊子がまとまった。</p> <p>卒業研究には 各教員のゼミ研究が進んだ</p> <p>研究を 共通意識に挙げられなかった状況でおわってしまった。視野に入れていく場を設定していく、今後の課題である。</p> <p>一部教員の取り組みはできたが、広がりは作れなかった。後藤顧問の指導で進捗しつつある。</p> <p>早期履修制度の説明会を開き、学生は意義は理解して、学問研究への途に着くことはできた。履修への指導は年次初めに実施している。</p> <p>現場で、教育実践を深める研究的活動を行っていくことを今後も一層意識して取り組んでいく。 読み聞かせ活動を年間を通して 実施した。</p>	研究冊子				
	実施	実施	実施	実施	実施	I		<p>卒業研究には 各教員のゼミ研究が進んだ</p>	<p>卒論中間発表の実施、卒論の研究評価の実施</p>			
	実施	実施	実施	実施	実施	III						
	計画	実施	見直し	実施		II						
	計画	実施	見直し	実施	成果	III						
	実施	成果と課題	実施	実施	実施	III						
	実施	実施	実施	実施	実施	III						
	<h3>3. 貢献ビジョン</h3> <h4>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</h4> <p>(1) 地域コミュニティづくり</p> <p>【文化創造学専攻（書道）】</p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チラシを作成して「全国書道展」出品団体および東海三県の高校に広報を行う。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書道」に関する岐阜県、岐阜市等からのニーズに応え、書道パフォーマンスの実施など地域との連携を図る。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙媒体及びウェブでの広報を行う。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のリーダー格の人たちとコミュニケーションを図る。</li> </ul>											
	実施	継続	継続	継続	継続					III	<p>毎年高校生が参加する「柳ヶ瀬書道パフォーマンス」に模範揮毫として本学書道部が招待されている。</p> <p>年末に開催される岐阜市の「駅とまちを光でつなぐ杜のイルミネーション」では、二年続けて「のぼり・旗」の揮毫を依頼された。</p>	チラシ・作品応募要項等
	実施	継続	継続	継続	継続					IV		大学地域連携活動一覧表
準備	実施	継続	継続	継続		IV	チラシ等					
実施	継続	継続	継続	継続		IV	大学地域連携活動一覧表					

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス	
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)				
<p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシ、はがきなどでの継続的な広報活動を行う。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価等の結果を共有する。</li> </ul> <p>【初等教育学専攻】</p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内の学校連携として、三輪南の小学校の運営推進に携わって、学生の学校現場活動の場として、小学校の児童指導の要請に応える交流を、計画化して、双方の利益に結びつけていく取り組みを行う。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度 岐阜市警察署との提携による地域貢献活動を、3学年次の活動に位置づけ、社会貢献意識と実践力の向上を図っていく。</li> </ul> <p>(2) 生涯学習の環境づくり</p> <p>【文化創造学専攻(書道)】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年一回社会人向け「公開講座」を開催する。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻(観光)】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人向け公開講座を開講する。</li> </ul> <p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブ公開講座を実施する。</li> </ul> <p>【初等教育学専攻】</p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングによる教育職免許状の上進の講座を推進していく。</li> </ul>	実施	継続	継続	継続	継続	III	①専攻チラシやはがきを作成し、広報活動を実施した。	専攻チラシ	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	②地域とのデジタルアーカイブに関する取り組みを実施した。	専攻ウェブサイト	
	計画	実施	見直し	実施	成果	IV	従来からの出前とりくみ 「税に関する理解」については、4年生が児童との関わり方II重点を置き、効果的な授業を提供してきた。25年度も実施した。	活動一覧	
	実施	実施	成果	実施	成果	IV	岐阜北警察署から学生に委嘱されている事項に関わって、職務を果たすことで、効果を上げることができた。25年度継続した。	関係学生	
	準備	実施	継続	継続	継続	II	「教育書道講習会」を愛知県内の2ヶ所で毎年一般向けに実施している。岐阜県内でも開催できるようにしたい。		
	準備	実施	継続	継続	継続	II	25年度中、いわゆる「公開講座」は開催せられなかったが、岐阜学会は引き続き、外部及び学内に宣伝されている。	公開講座一覧表	
	実施	継続	見直し	実施	継続	III	①社会人のためのデジタルアーカイブ公開講座を実施した。	資格取得講座・資格認定試験日程表	
	計画	実施	実施			IV	文科省委託事業「現職教員の新たな免許状取得の促進」の3年目に取り組み、現役の教員のキャリア・アップに貢献する取り組みを行った。25年度も計画通りに行い受講者も多かった。	公開講座講演会等の実施要項	
	4. 組織・運営体制 健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】								
	(1) 経営基盤の確保のための措置								
【文化創造学専攻(書道)】									
①定員管理を適正に行う。	準備	実施	継続	見直し	実施	II	「全国書道展」の黒字化については、出品料の増額を考えなければならない時期に来ているかもしれない。	学科・専攻定員一覧表	
① 収益事業を推進する。	実施	継続	継続	継続	継続				
・「全国書道展」「岐阜女子大学書写書道研究会」などの黒字化を図る。									

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス		
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)					
<p>③外部資金の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費に応募する。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①定員管理を適正に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会ニーズに対応して、各学科・専攻の定員の増減を行う。</li> </ul> <p>②収益事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座などの黒字化を図る。</li> </ul> <p>③外部資金の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費に公募した教員に特典を与える。</li> </ul> <p><b>（２）ステークホルダーとの連携</b></p> <p>【文化創造学専攻（書道）】</p> <p>①大学情報を効果的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレット、チラシ、ホームページ等で大学の情報を配信する。</li> </ul> <p>②学内外からの大学支援を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学と関係する組織・企業との緊密化を図る。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①大学情報を効果的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体・ウェブ等で大学の情報を配信する。</li> </ul> <p>②学内外からの大学支援を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学と関係する組織・企業との緊密化を図る。</li> </ul> <p><b>（３）計画的基盤整備</b></p> <p>【文化創造学専攻（書道）】</p> <p>①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回実施する「書道コース会」で周知徹底させる。</li> </ul> <p>②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケート調査を基にして、学生のニーズを把握する。</li> </ul> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会を定期的に行う。</li> </ul> <p>②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生アンケート調査を基にして、学生のニーズを把握する。</li> </ul> <p><b>（４）学生の確保のための措置</b></p> <p>【文化創造学専攻（書道）】</p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスに来た学生及び資料請求をした学生に対して、本専攻の魅力を手紙によりアピールする。</li> </ul>	準備	準備	実施	継続	継続	II	社会にニーズ及び学生に魅力を感じさせる資格を探っている。	科研費取得一覧表		
	準備	実施	継続	継続	継続			I	公開授業を行っていない	学科・専攻定員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続					公益授業一覧表
	準備	準備	実施	継続	継続			III	特にホームページでの配信内容を充実させる必要がある。	外部資金取得一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	各種リーフレット・チラシ				
	準備	実施	継続	継続	継続	各種リーフレット				
	準備	実施	継続	継続	継続	入学案内 各種リーフレット・ホームページ				
	準備	実施	継続	継続	継続	各種リーフレット・ホームページ				
	実施	継続	継続	継続	継続	III	書道関係の備品の充実に努力し実施している。			学生アンケート報告書
	実施	継続	継続	継続	継続	II	専修会議内での話し合いのみ	関連研修会報告書		
	実施	継続	継続	継続	継続			学生アンケート報告書		
	実施	継続	見直し	実施	継続	III	学生が揮毫した巻紙の礼状をコピーしてオープンキャンパス参加者に郵送している。	オープンキャンパス参加数		

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <p>・オープンキャンパスに来た学生及び資料請求をした学生に対して手紙によるフォロー。</p> <p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <p>・オープンキャンパスや資料請求者への広報活動を常に見直し計画的に行う。</p> <p>【初等教育学専攻】</p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <p>・定時制高校など入学する生徒の多様化に即して、ハイブリット型の学び方を一層促進していく。</p> <p>・オープンキャンパスでの体験授業の内容を、初等教育学のカリキュラムから選択し高校生に分かりやすく、興味の湧く内容。方法を講じ進めていく。</p> <p>（５）教職員の確保のための措置</p> <p>【文化創造学専攻（書道）】</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <p>・有能な若手教員の確保に努める。</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。</p> <p>・適正教員人数を目指す。</p> <p>③FD・SDを推進する。</p> <p>・年一回の研修を行う。</p> <p>【文化創造学専攻（観光）】</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <p>・有能な教員の確保に努力する。</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。</p> <p>・定年制の運用を図る。</p> <p>③FD・SDを推進する。</p> <p>・年一回の研修を行う。</p> <p>【デジタルアーカイブ専攻】</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <p>・適正教員人数を目指す。</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。</p> <p>・適正教員人数を目指す。</p> <p>③FD・SDを推進する。</p>	実施	継続	見直し	実施	継続			月別送付数
	見直し実施	見直し実施	見直し実施	見直し実施	見直し実施	II	①入学定員減(50人→30人)の内新入生が28名で定員充足率80%以上ではあるが、定員減の影響であり、定員数には課題がある。	
	計画	実施	見直し	実施	実施	II	高校訪問への積極取り組みを行ってきた。通信制の高等学校からの入学生も増加の傾向にはある。ハイブリット化 学びは今後の課題。	広報活動の実績表
	実施	実施	実施	実施	実施	III	オープンキャンパスに来た生徒が、本専攻に入学してきている実績は高くなっている。広報活動は効果をあげつつある。通信制の高校からの入学者の学びの成果を広報活動に有効に活用した。	
	準備	準備	準備	実施	実施	II	ICTに堪能な若手教員の確保が急がれる。	大学教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続			大学教員一覧表
	準備	実施	継続	見直し	継続			FD・SD報告書
	準備	準備	実施	実施	実施			大学教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	IV		大学教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	見直し	III		FD・SD報告書
	継続	継続	継続	継続	継続	II	①・②適正教員人数および組織の若返りともに、専攻単体では実施が難しく、①・②ともに達成できていない。	
	継続	継続	継続	継続	継続	II		

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス	
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)				
<ul style="list-style-type: none"> <li>大学全体の動きに沿う。</li> <li>【初等教育学専攻】</li> <li>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</li> <li>・実施しない。</li> <li>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。</li> <li>・本専攻を卒業し、現場で働いている実務家教員を年々に採用して、先輩教員と共同研究をしながら、実践力と研究心を持った教員をふやしていく。</li> <li>③FD・SDを推進する。</li> <li>・例年行っている授業評価を専攻会議の中で共有し、授業改善を専攻の課題として、教育内容の向上を図る。</li> <li>・教育実習等、外部からの学生の評価を共有化して、保育・教育指導に一層の実践力・高い教育観を持った人材育成をしていく。</li> </ul>	継続	継続	継続	継続	継続	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>③大学実施のFD等に参加を推進した。</li> <li>I 入学者が、定員よりも減少し続けていて、教員の新規の採用が必要感に至らない現状にある。</li> <li>IV 学生の行う授業評価の結果を、各教員が振り返り、改善策を立てて次年度に役立てている。25年度も継続し、意識を図った。</li> <li>III 実習の成績は、外部評価として客観視し、その評価の芳しくないことに課題として共有し、その対策を講じた。事前指導など実習の授業指導を通して行った。</li> </ul>	研修会資料	
	計画	実施	継続	見直し		I			教員の個々の授業評価表
	実施	実施	実施	実施		IV			
	実施	実施	実施	実施		III			
<p><b>5. 点検評価</b> <b>自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携</b></p> <p>(1) 内部質保証の継続のための措置</p> <p>【文化創造学専攻（書道・観光）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。</li> <li>・関連する組織を立ち上げる。</li> <li>②教学IR体制を充実する。</li> <li>・関連する組織を立ち上げる。</li> <li>【デジタルアーカイブ専攻】</li> <li>①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。</li> <li>・大学全体の自己点検評価に沿って行動する。</li> <li>②教学IR体制を充実する。</li> <li>・IR室保管資料の定期的な提供を行う。</li> <li>【初等教育学専攻】</li> <li>①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。</li> <li>・教育実践力を自己点検する「評価表」の活用の仕方を改善し、目標値をもたせて有効な使い方を追究する。</li> <li>・学生の行う「授業評価」の項目を専攻の教育内容とマッチングさせて結果の活用を図る。</li> <li>②教学IR体制を充実する。</li> <li>・現行のIR室の活用を、専攻の活動内容の向上のために役立てていく。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	IV	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価が高い。</li> <li>III</li> <li>III ①授業改善報告等を実施した。</li> <li>III ②コア・カリキュラム評価等を実施した。</li> <li>III 学生による授業評価 2大かつどうによる学生の充足度、評価の仕方に甘さのあることが問題であり、この評価観点について検討をして行くことを専攻会議で話し合い、改善して行く方向にある。25年度 授業評価は、ほぼ達成の域に至っている。</li> <li>III</li> <li>I 専攻内の活動に関するエビデンスは必要感を持ったが、他の専攻を参考にし、拡大させる運営ができなかった。25年、専攻内の活用に留まった。</li> </ul>	自己点検評価報告書	
	準備	実施	継続	継続	継続	III			教学IR報告書
	実施	継続	継続	継続	継続	III			授業改善科目一覧2025
	実施	継続	継続	継続	継続	III			外部評価委員会資料
	実施	実施	実施	実施	実施	III			自己点検表
	計画	実施	見直し	実施	実施	III			
	計画	実施	見直し	実施		I			

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b>  <b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・e-learning 科目の整備を行う。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b>                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。                      ①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・担当する委員会にて随時検討する。                      ①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・担当する委員会にて随時検討する。</p> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し                      ・検討委員会にて、随時検討を行う。                      ②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。                      ・担当する委員会にて随時検討する。                      ③新たな資格取得支援を推進する。                      ・新たな資格に関する情報を随時入手する。</p> <p><b>（3）学修支援体制の拡充のための措置</b>                      ①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。                      ・成果をネットにて掲載して院生の動機付けを高める。</p> <p>②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。                      ・学内サイボウズの活用化を図る。</p> <p>③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。                      ・インターン受け入れ先の開拓を積極的に行う。</p>	準備	実施	継続	継続	継続	III	e-learning 推進部会(大学教育推進会議)が中心となって、e-learning 科目の整備を進めている。	シラバス一覧, デジタルアーカイブ研究所サイト(https://mcodu.jp/)
	準備	実施	継続	継続	継続	IV	科目におけるガイドブックを作成し、各時間の具体的な達成目標を明示し、それに沿った授業を展開した。	
	準備	実施	継続	継続	継続	IV	ドローン等を用いた地域資料を充実させ、GIGA スクール構想により整備された、1人1台端末を用いる個に応じた教育の研究を深めた。	報告書
	準備	実施	継続	継続	継続	IV	メタバースを活用した遠隔協働学習、資料やデータベースの活用、AIの活用などが可能になり、大学院の授業にもこれらの教育利用を取り入れている。	報告書 Diploma Policy 等各種ポリシー
	準備	実施	継続	継続	継続	III	大学院委員会を定期的に開催し、広く教員の意識の共通化を図ると共に、授業改善について話し合っている。	報告書
	準備	実施	継続	継続	継続	III	入学後早い段階で3名の教員による修士論文指導体制の充実を図った。通信制院生には、入学後すぐに1名のメンターを決定し履修相談に対応している。	修士論文教員一覧
	実施	継続	継続	継続	継続	III	演習科目においては専門的知識の基盤となるべき実践的な技能の習得を進め、各種資格の取得を心がけた。	資格一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	年2回修士論文についての外部の人材による評価を得るために、日本教育情報学会のデジタルアーカイブ研究会や教育資料研究会を公開で開催し、外部の専門家に院生の研究についての外部評価を得ている。それらの成果はネットで公開している。	成果報告書、大学院サイト 研究会プログラム
	実施	継続	継続	継続	継続	III	Multi Campus One Digital University にてアーカイブ化を推進している。	デジタルアーカイブ研究所 サイト
	実施	継続	継続	継続	継続	II	キャリア支援センターと共同で受け入れ先の開拓を行っている。対象は主として通学生となる(通信課程の学生に関しては、社会人が多い)。	インターン先一覧表

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・院生に相応しいバイト先などの斡旋紹介を行う。</li> </ul> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。</p> <p>⑤-1 就職率の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職指導を充実化してゆく。</li> </ul> <p>⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部と連携して、集中講義などを行う。</li> </ul> <p><b>（４）学生の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代に即応した改組・改編に積極的に取り組む。</li> </ul> <p>①-2 新たな資格の取得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな資格取得のために情報収集を行い、それに合わせて整備する。</li> </ul> <p>①-3 大学の魅力の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「少数精鋭教育、遠隔教育、地方に即した」等をキーワードに魅力を発信する。</li> </ul> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座などを行う。</li> </ul>	準備	実施	継続	継続	継続	II	院生は社会人が多いが、バイト等の希望者には適宜対応している。	<p>就職先一覧表</p> <p>集中講義一覧表</p> <p>学生便覧</p> <p>資格一覧表</p> <p>通信教育課程ガイドブック</p> <p>出前講座・実施高校一覧表</p>
	実施	継続	継続	継続	継続	II	キャリア支援センターと連動しながら就職先の確保に努めているが、院生は社会人が多いので、就職指導が不要な場合も多い。	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	土日祝日、夏季冬季の休業期間を用いて集中講義を行っている。また早期履修制度を利用して、学部生が院の授業を受けている。	
	準備	準備	実施	継続	継続	II	学部を中心に時代に即した名称や授業内容の改組・改編を行っている。大学院でもその準備を進めている。	
	準備	実施	継続	見直し	実施	III	専修免許状、上級デジタルアーキビストの資格に加えて、時代に即応した資格取得ができるように努力をしている。	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	授業において、キーワード「少数精鋭教育、遠隔教育、地方に即した」を重視している。	
	実施	実施	見直し	実施	実施	II	学部で行っているが、今後は大学院でも行うことも検討している。	
	準備	準備	実施	継続	継続	IV	私立大学研究ブランディング事業を本年度も大学独自に継続し、岐阜県立郡上北高等学校との連携による講座を開催した。なお、書道などにおいて、日展入選者には学長表彰を行っている。また、2022年度のメタバースプロジェクト研究成果を報告した論文「メタバースを利用した遠隔協働学習における創発の可能性」が日本教育情報学会 学会賞奨励賞を受賞。2023年度のメタバースプロジェクト研究成果を日本教育情報学会で報告している。	
	準備	準備	実施	継続	継続	II	科学研究費の応募の際には、随時、院生を研究協力者として含めている。	
	準備	実施	継続	継続	継続	III	大学院・学部横断的なカリキュラムへと変更を進めている。カリキュ	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・フィールドワーク、現地調査などを意識した大学院教育を行う。	準備	実施	継続	継続	継続	III	ラム開発研究所、沖縄カリキュラム開発研究センターによる e-Learning の研究、地域教材の開発などの成果を機関誌などとして発刊するとともに、授業で活用している。 地域との連携を推進し、高山市、郡上市、岐阜市、北方町との協働によるデジタルアーカイブ化を推進した。	大学院シラバス
<b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b> <b>(1) 地域コミュニティづくり</b> ①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。) ・紙媒体、あるいはウェブでの広報を行う。 ②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。) ・地域のリーダー格の人材達と積極的にコミュニケーションを図る。 <b>(2) 生涯学習の環境づくり</b> ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・社会人向けの公開講座を開講する。	実施	継続	継続	継続	継続	III	デジタルミュージアムがあり、そこには、飛騨おうらい、木田宏教育資料アーカイブズなどがある。また、各地域の文化遺産(岐阜市文化遺産、郡山白山文化遺産、飛騨高山匠の技、関市文化遺産、犬山市文化遺産、伊那市地域文化資源、沖縄文化遺産、左甚五郎遺産)をアーカイブ化することで地域の人材とコミュニケーションを行っている。	大学地域連携活動一覧表
	実施	継続	継続	継続	継続	III		
	準備	準備	実施	継続	継続	IV	大規模公開オンライン講座の充実化をおこなっている。	公開講座一覧表
<b>4. 組織・運営体制</b> <b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b> <b>(1) 経営基盤の確保のための措置</b> ①定員管理を適正に行う。 ・社会のニーズに応じて、各学科の定員の増減を行う。 ②収益事業を推進する。 ・公開講座などが黒字化するように努める。 ③外部資金の確保に努める。 ・科研費に公募した教員に何らかの特典を与える。 <b>(2) ステークホルダーとの連携</b> ①大学情報を効果的に発信する。 ・紙媒体、ウェブ等で大学の情報を適切に配信する。 ②学内外からの大学支援を依頼する。 ・本学と関係する組織との密接化を計る。	準備	実施	継続	継続	継続	II	数年後の実施を目指して学内の調整を行っている。	学科定員一覧表
	準備	準備	実施	継続	継続	III	公開講座参加者から参加費を徴収することで、すでに黒字化している。	公益事業一覧表
	準備	準備	準備	実施	継続	IV	人事考課自己申告書にてポイントを付与している。	外部資金取得一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	パンフレット、ウェブサイトを利用して配信している。 産官学連携の岐阜女子大学メタバースプロジェクトを実施し、教育 DX の事例として大学院の授業で取り扱うとともに、メタバース研究用に	入学案内、各種パンフレット
	準備	実施	継続	継続	継続	III	岐阜女子大学校舎や沖縄の学習・観光の部屋などを設置した。	各種パンフレット

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス	
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)				
<b>(3) 計画的基盤整備</b> ①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。 ・研修会を定期的に行う。  ②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・アンケート調査を活用して学生のニーズを把握するようにする。	実施	継続	継続	継続	継続	III	研修会を適宜行っている。	研修会報告書	
	実施	継続	継続	継続	継続	III	授業改善に関する学生アンケートを活用して、実際の授業と学生のニーズがマッチングするようにしている。	学生アンケート報告書	
<b>(4) 学生の確保のための措置</b> ①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。 ・大学院の魅力の発信に努める。  <b>(5) 教職員の確保のための措置</b> ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 ・若手で有能な教員の確保に努力する。  ②計画的な人事施策により組織の若返りを図る。 ・定年制の厳格な運用を図る。  ③FD・SDを推進する。 ・年二回の研修を行う。	準備	実施	継続	見なおし	実施	III	ウェブ、パンフレットなどを充実化して魅力発信を行っている。それにより、定員の充足を目指している。	大学院入学者一覧表	
	準備	準備	実施	実施	実施	II	若手で有能な研究者を採用することで若返りを図っている。	大学院教員一覧表	
	準備	実施	継続	継続	継続	II	定年制の厳格な運用は随時行っている。	大学院教員一覧表	
	準備	実施	継続	継続	継続	III	教授会終了後の時間帯にFD、SDを随時行っている。	FD・SD報告書	
<b>5. 点検評価</b> <b>自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携</b>  <b>(1) 内部質保証の継続のための措置</b> ①教学マネジメントの自己点検評価を推進する。 ・該当する組織を立ち上げる。  ②教学IR体制を充実する。 ・該当する組織を立ち上げる。	準備	実施	継続	継続	継続	III	認証評価小委員会を立ち上げて内部質保証を推進してゆく。	自己点検評価報告書	
	準備	実施	継続	継続	継続	III	IR室を設立して、大学における教育の質向上や経営改善、学生支援を目的としたデータの収集・分析・活用を行っている。	教学IR報告書	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b>                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・大学院授業科目履修制度（早期履修制度）の活用促進、中長期の臨地実習や資格取得支援のために一部授業科目の e-Learning 化などによる遠隔教育対応を目指す。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b>                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。                      ①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      （該当なし）                      ①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      （該当なし）                      ①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し                      （該当なし）                      ②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。                      （該当なし）                      ③新たな資格取得支援を推進する。                      ・1・2 級建築士の資格取得支援を推進する。</p> <p><b>（3）学修支援体制の拡充のための措置</b>                      ①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。                      （該当なし）                      ②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。                      （該当なし）                      ③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。                      ・中長期の臨地実習の受け入れ先等を開拓する。</p>	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	II	・具体的な e-Learning 化の授業科目を選定している段階であり、次年度以降も授業科目、内容等の検討を進めていく。	大学院生活科学研究科委員 会議事録
	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	I	・建築士の資格取得希望入学者がいないこともあり、具体的な進展はない。	
	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	I	・実習希望者がいないこともあり、具体的な進展はない。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>④生活基盤の安定を支援する。（奨学金制度の活用を推進） （該当なし）</p> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。</p> <p>⑤-1 就職率の維持 （該当なし）</p> <p>⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 （該当なし）</p> <p><b>（４）学生の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。</p> <p>①-1 学科等の改組・改編 ・生活科学専攻（生活科学分野、応用栄養学分野）を生活科学専攻と応用栄養学専攻の2専攻に再編することを目指す。</p> <p>①-2 新たな資格の取得 ・建築士資格取得を支援する体制を整える。</p> <p>①-3 大学の魅力の創出 （該当なし）</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 （該当なし）</p>	定員の充足	定員の充足	定員の充足	2専攻化の検討	2専攻化の検討	I	<p>・令和8年度、応用栄養学分野に1名入学予定であるが、十分に定員を満たすことができていないため、再編の可能性を見いだせていない。</p> <p>・建築士の資格取得希望入学者がいないこともあり、具体的な進展はない。</p>	
	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	I		
<p><b>2. 研究ビジョン</b></p> <p><b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>（１）研究成果の発信</b></p> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 （該当なし）</p> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 （該当なし）</p> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・家庭科専修免許状を取得しようとする学生が、より幅広く衣食住に関わる社会的課題を見つけ、その解決策について探求できるよう、衣食住生活研究センターと連携し、より学際的なテーマの研究活動（防災と衣食住、健康と衣食住など）を支援する。</p> <p>④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。</p>	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	I	<p>・家庭科専修免許状を取得希望の入学予定者はいないが、衣食住生活研究センターと連携し、学際的なテーマの提案を行っていく。</p>	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>・大学院授業科目履修制度（早期履修制度）の活用を促進し、高度な専門知識や教材開発能力を有する家庭科教員、中長期の臨地実習により実践的教育研究を経験した管理栄養士、1・2級建築士を有する技術者などとしての就職実績をつくる。</p>	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	I	<p>・今年度は、実践教育研究希望の入学者がいなかった。</p>	
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 地域コミュニティづくり</b> ①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。） ・学生が主体的に衣食住生活研究センター等が主催する研究会等のイベントを企画、運営することを課し、自身の研究活動の一環とするとともに、イベントに参加する学校、企業、行政、市民等へ研究成果を情報発信、還元することで社会の発展に貢献していく。</p> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。） （該当なし）</p> <p><b>(2) 生涯学習の環境づくり</b> ①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 （該当なし）</p>	調査・検討	調査・検討	調査・検討	試行	実施	II	<p>・イベント企画、運営には至らなかったが、自身の研究内容を学会で発表し、情報発信を行った。</p>	
<p><b>4. 組織・運営体制</b> <b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b></p> <p><b>(1)～(3) 該当なし</b> <b>(4) 学生の確保のための措置</b> ①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。 ・2. 研究ビジョン(1)研究成果の発信 ④による</p> <p><b>(5) 教職員の確保のための措置</b> ①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 ・生活科学分野の教員の拡充を目指す。</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 （該当なし）</p>	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	検討・実施	III	<p>・研究成果を岐阜県栄養士会主催栄養改善学会で発表し、研究内容を発信した。</p>	第34回岐阜県栄養改善学会講演集
	検討	検討	検討	実施		I	<p>・生活科学分野の教員の拡充には至っていない。</p>	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
③FD・SDを推進する。 (該当なし)								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>2. 研究ビジョン</b> 研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b> ①『地域文化研究』を発刊する。</p> <p>②HPで、地域に関わる情報を発信する。</p> <p><b>(2) 研究実施体制の支援</b> ①地域資料の発刊情報を集め、資料収集に努め、資料提供をおこなう。</p>	実施	実施	実施	実施	実施	II	①研究紀要を発刊したが、論文掲載がなかった。投稿論文がなかった。	①学士論文発表タイムスケジュール「丸山幸太郎オーラルヒストリーの制作」
	掲載資料 のコンテンツ準 備	試行	更新	更新	更新	II	②地域にかかわる資料の収集に努めたが少数にとどまった。関連の新規資料が多くなかった。	
	対応	対応	対応	対応	対応	III	①学部生の卒論にかかわり、オーラルヒストリーの作成に協力し、情報を提供している。	
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> 社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</p> <p><b>(1) 地域振興の基礎づくり</b> ①文化講演会やシンポジウム等を開催する。</p> <p>②各種団体と連携し、生涯学習に関する活動を実施する。</p> <p>③地方自治体の要請に応え、地域資料に関する情報の提供、あるいは編纂・刊行事業に対して協力をする。</p>	実施	実施	実施	実施	実施	III	①岐阜学会と連携し、文化講演会、シンポジウム、特別講座をおこなった。	①岐阜学会報 62・63号
	実施	実施	実施	実施	実施	III	②-1 揖斐郡淡水会総会にて「徳川家康の生涯と生き方」を講演 ②-2 岐阜県地名文化研究会にて「徳川家康の生涯と生き方」を講演 ②-3 桔梗会総会にて「古田織部の生涯と生き方」を講演	②-1～3 講演チラシ
	実施	実施	実施	実施	実施	III	③-1 岐阜県文化伝承課文化財エキスパートとして、関ヶ原町の指定文化財の調査・意見具申に協力 ③-2 岐阜県関ヶ原古戦場記念館資料収集委員として協力 ③-3 岐阜県博物館資料収集委員として協力 ③-4 『美濃市史』編纂委員・監修者として協力	③-1～7 委員就任委嘱状・承諾書、会議開催通知

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
							③-5 岐阜市公共ホール評議員及び自主事業運営委員として協力 ③-6 神戸町文化財アーカイブ事業実行委員長として協力 ③-7 池田町太鼓判認定委員として協力	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化創造学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「文化の創造」を図り、「実践的学問」を修得するための教育課程を支援する。</p> <p>②教員の研究にかかわる「デジタルアーカイブ研究所所報、報告、テクニカルレポート」などデジタルアーカイブ資料の提供、論文作成のための資料集の提供、研究誌「文化情報研究誌」掲載支援など、教員の研究論文作成支援を行う。</p> <p>③地域文化、伝統文化、歴史、民俗、自然、教育など幅広い分野を素材としたデジタルアーカイブを推進する。</p> <p><b>（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①文化情報研究センターが有する、カメラ、パソコン、スキャナー、デジタル編集機器等を充実し、実践的な教育を行う。</p> <p>②遠隔教育システム（e-Learning）を充実し、大学、文化情報研究センター、沖縄サテライト校をネットワーク化し遠隔教育を進める。</p> <p><b>（3）学生への支援に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①高校生へのデジタルアーカイブクリエイタ資格取得講座の実施、学部生・院生への各種実習（デジタルアーカイブ演習、博物館実習など）の支援など、入学前から卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。</p> <p>②学部生の卒業論文、院生の修士論文作成支援を行う。</p>	継続	継続	継続	継続	継続	III	各種の講座支援や大学院の授業支援を継続的にしている。	
	継続	継続	継続	継続	継続	III	文化情報研究誌を定期的発刊し、文化創造学部の研究支援を行っている。	文化情報研究誌
	継続	継続	継続	継続	継続	III	地域資源デジタルアーカイブを継続的に補強している。 地域資源デジタルアーカイブの充実 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/">(https://digitalarchiveproject.jp/)</a>	デジタルアーカイブ資料 研究誌
	継続	継続	継続	継続	継続	II	予算の関係で、最新機器の整備が出来ていない。	
	継続	継続	継続	継続	継続	III	遠隔教育システムを使ったサテライト校との授業を継続的に進めている。	
	継続	継続	継続	継続	継続	III	高校生や一般社会人を対象にしたデジタルアーキビスト講座を継続的に実施している。 岐阜県立郡上北高等学校でのデジタルアーカイブの授業への支援	講座の実績
	継続	継続	継続	継続	継続	III	卒業論文や修士論文の作成支援を継続的に行っている。	
<p><b>2. 研究ビジョン</b>  <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するた</b></p>								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<b>めの措置</b> ①文化情報研究センターの使命を実現するため3つの機能を充実し、相互に連携させた活動を行う。 ・デジタルアーカイブ研究所 ・遠隔教育部門（遠隔教育・公開講座など） ・デジタルミュージアム ②NPO 法人日本デジタルアーキビスト認定機構、NPO 法人日本アーカイブ協会、デジタルアーカイブ学会、デジタルアーカイブ研究会、日本教育情報学会、との連携を図り、デジタルアーキビスト養成の拠点にする。 （2）研究実施体制等に関する目標を達成するための措置 ①文化情報研究センターの中核的機能を担い、日本で最初に設置した「デジタルアーカイブ研究所」の充実を図る。 ②学部、研究科との連携を深め、沖縄サテライト校等での遠隔教育実践によって得た研究成果を、Multi Campus One Digital University 構想によって多面的に展開し、公開講座の発展充実を図る。（新規） ③全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなデジタルユニバーシティ（Multi Campus One Digital University）における教育リソースの整備（新規）	継続	継続	継続	継続	継続	III	3つの機能を関連した事業を継続的に展開している。 ・デジタルアーカイブ研究所においてリスキリングを中心にデジタルアーカイブ in 岐阜 2025 を実施 外部機関との連携を密に取り、研究会などを継続的に展開している。	公開講座の実績 <a href="https://mcodu.jp/2025/09/08/%e3%80%90%e5%85%ac%e9%96%8b%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%91%e3%83%87%e3%82%b8%e3%82%bf%e3%83%ab%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%82%ab%e3%82%a4%e3%83%96in%e5%b2%90%e9%98%9c%e3%80%90%e4%bb%a4%e5%92%8c7%e5%b9%b4/">https://mcodu.jp/2025/09/08/%e3%80%90%e5%85%ac%e9%96%8b%e8%ac%9b%e5%ba%a7%e3%80%91%e3%83%87%e3%82%b8%e3%82%bf%e3%83%ab%e3%82%a2%e3%83%bc%e3%82%ab%e3%82%a4%e3%83%96in%e5%b2%90%e9%98%9c%e3%80%90%e4%bb%a4%e5%92%8c7%e5%b9%b4/</a>
①文化情報研究センターの中核的機能を担い、日本で最初に設置した「デジタルアーカイブ研究所」の充実を図る。	継続	継続	継続	継続	継続	III	デジタルアーカイブ研究所の Web を継続的に充実発展している。	<a href="https://digitalarchiveproject.jp/">https://digitalarchiveproject.jp/</a>
②学部、研究科との連携を深め、沖縄サテライト校等での遠隔教育実践によって得た研究成果を、Multi Campus One Digital University 構想によって多面的に展開し、公開講座の発展充実を図る。（新規）	試作	試行	評価	継続	継続	III	Multi Campus One Digital University 構想によって多面的に展開している。 参考： <a href="https://digitalarchiveproject.jp/">https://digitalarchiveproject.jp/</a>	公開講座の実績
③全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなデジタルユニバーシティ（Multi Campus One Digital University）における教育リソースの整備（新規）	試作	試行	評価	準備	準備	III	全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなデジタルユニバーシティ（Multi Campus One Digital University）における教育リソースの整備を継続的に展開している。 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/">https://digitalarchiveproject.jp/</a>	e-Learning コンテンツの実績 <a href="https://digitalarchiveproject.jp/">https://digitalarchiveproject.jp/</a>
<b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b> （1）社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置 ①デジタルアーカイブの幅広い地域、世代への普及を目指し、デジタルアーカイブ研究会を支援する。 ②各種公開講座を実施し、社会人の資格取得支援、再教育を支援する。 ③文化情報研究センターの立地を活かし、公開講座、大学院への社会人入学等を積極的に展開し、地域への社会貢献を行う。	継続	継続	継続	継続	継続	III	デジタルアーカイブ研究会や教育資料研究会を年2回実施している。	デジタルアーカイブ研究会の実績
②各種公開講座を実施し、社会人の資格取得支援、再教育を支援する。	継続	継続	継続	継続	継続	III	各種公開講座を継続的に展開している。	公開講座の実績
③文化情報研究センターの立地を活かし、公開講座、大学院への社会人入学等を積極的に展開し、地域への社会貢献を行う。	継続	継続	継続	継続	継続	III	リスキリング講座を実施し、継続的に社会人の講座を e-learning で実施している。	リスキリング講座

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>2. 研究ビジョン</b> <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b></p> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化に関する研究・調査活動をセンターとして積極的に支援し、地域社会の生活文化の発展に寄与することを目指す。</li> <li>衣食住生活研究に関する学術論文誌、活動記録レポートの発行を通じて、衣食住生活研究センターのブランド化を図る。</li> </ul> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>共同研究成果を地域連携・活性化に繋げるために、公募事業に挑戦し、外部資金獲得する。</li> </ul> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>衣食住に関する共通課題を明確にし、学内の研究体制を整備、協同研究を実施する。</li> </ul>	実施	実施	実施	検証・実施	実施	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活文化に関する研究・活動内容を冊子としてまとめ、地域社会への発信と県内高校への配布を行い、生活文化の発展に寄与した。</li> <li>衣食住生活研究・活動レポート第10号、学術論文誌「衣食住生活研究」第6号の発刊を行うことができた。</li> <li>新規に獲得できた外部資金はなかったが、令和6年度に一般財団法人越山科学技術振興財団より受けた研究資金をもとに、令和7年度も引き続き研究を実施した。</li> <li>共通課題の候補は挙げられたが（防災、健康など）、体制整備にまでは至らなかった。次年度以降も引き続き、課題整理、体制整備を目指す。</li> </ul>	<p>衣食住生活研究・活動レポート第10号</p> <p>学術論文誌「衣食住生活研究」第6号</p>
	実施	実施	実施	検証・実施	実施	III		
	企画	実施	企画	実施	実施	II		
	課題整理、 体制整備	課題整理、 体制整備	課題整理、 体制整備	検証・実施	実施	II		
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 地域コミュニティづくり</b></p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。（活動実績の見える化を図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学科・専攻の活動を地域社会に広報し、参加協力依頼を実施するとともに、地域の要請に積極的に参加する。研究活動レポートを配布し、衣食住生活に関する教育・研究成果を地域社会に提供する。</li> </ul> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。（マッチングを図る。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域と大学をつなぐパイプ役として衣食住生活に関する地域の課題や研究依頼を受け付け、学内協同し解決を図る。</li> </ul> <p><b>(2) 生涯学習の環境づくり</b></p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学内教員と学生及び卒業生の家庭科教員のネットワーク化を強化し、</li> </ul>	地域活動 の調査 企画ま とめ	実施	実施	検証・実施	実施	III	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県や岐阜市、各務原市などと提携して活動を行っている。これらの活動内容は、衣食住生活研究・活動レポートとしてまとめており、広報を兼ねて毎年高校に配布している。</li> <li>センターが主体として具体的に計画、立案することはできなかったが、各学科・専攻で新たな地域課題への取組等の報告がされた。</li> <li>家庭科教員の卒業生との提携が構築できなかった。次年度も引き続</li> </ul>	<p>衣食住生活研究・活動レポート第10号</p> <p>衣食住生活研究・活動レポート第10号</p>
	地域活動 の調査 企画ま とめ	実施	実施	検証・実施	実施	II		
	企画、体制	企画、体制	企画、体制	検証・実施	実施	I		

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
充実した調査・研究活動を充実させる。 ・幅広くリカレント教育として、学内の専門性を生かした公開講座や講演会を実施する。	整備	整備	整備				き、企画・体制整備を進めていく。 ・公開講座や講演会の開催はできなかった。企画を検討する。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）                      ①学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      （該当なし）</p> <p>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）                      ①社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p> <p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・参画事業、発信情報をアーカイブ化し、教材や地域情報発信に活用する。</p> <p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・参画事業や発信情報等をメタバース上に構築し、現職管理栄養士のスキルアップにも活用する。</p> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し                      （該当なし）</p> <p>②人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。                      ・活動の運営に学生が携わることで人間力、コミュニケーション力を伸長させる。</p>	資料のデジタル化 各市町に 協力依頼	事業動画 の教材化	事業動画 の集積	事業動画 の集積	事業動画 の集積・資料作成	II	連携事業の動画を一部撮影するにとどまった。 今後集積が必要である。	
	データ集積	センター活動を集積	センター活動を集積	評価・検討	メタバース上での活動 試行	III	事業資料を集積した。	
	運営参画・ 評価	指導改善・ 評価	指導改善・ 評価	指導改善・ 評価	指導改善・ 評価	III	地域活動に学生が関わり、運営した。	食物栄養と食文化 令和 7 年度（健康栄養学科年報）

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>③新たな資格取得支援を推進する。 (該当なし)</p> <p><b>(3) 学修支援体制の拡充のための措置</b></p> <p>①学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。 ・センター内に支援組織を作り、活動のポートフォリオの作成から実践活動の成果を学生が実感できるように整備する。</p> <p>②教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・アーカイブ化の組織を作り、研究教育資料のアーカイブ化、アーカイブ資料の利活用を推進する方法を検討、実施していく。</p> <p>③インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・運営組織を作り、センター活動のマッチング、活動評価を行い、活動をサポートしていく。</p> <p>④生活基盤の安定を支援する。(奨学金制度の活用を推進) (該当なし)</p> <p>⑤就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。 ⑤-1 就職率の維持 (該当なし) ⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 (該当なし)</p> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。 ①-1 学科等の改組・改編 (該当なし) ①-2 新たな資格の取得 (該当なし) ①-3 大学の魅力の創出 ・地域の健康長寿に関する情報発信、事業への参画を通して地域貢献を</p>	<p>組織の構築 活動成果の可視化、 の可視化、</p>	<p>評価、改善 活動成果 の可視化、</p>	<p>評価、改善 活動成果 の可視化</p>	<p>評価、改善 活動成果 の可視化</p>	<p>評価、改善 活動成果 の可視化</p>	<p>III</p>	<p>センター員を支援組織の組織員とし、実践活動の成果を可視化した。</p>	<p>食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)</p>
	<p>組織の構築 方法検討</p>	<p>アーカイブ化・利活用 試用</p>	<p>評価・改善</p>	<p>実施</p>	<p>評価・改善</p>	<p>II</p>	<p>研究教育資料のデジタル化を進めたが、アーカイブ化まで進められなかった。</p>	
	<p>組織構築 マッチング</p>	<p>活動評価 改善指導</p>	<p>活動評価 改善指導</p>	<p>活動評価 改善指導</p>	<p>活動評価 改善指導</p>	<p>III</p>	<p>昨年度の活動を継続し、課題解決に導けるようにした。</p>	<p>食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)</p>
	<p>調査・研究</p>	<p>情報発信</p>	<p>情報発信</p>	<p>情報発信</p>	<p>情報発信</p>	<p>III</p>	<p>地域活性化につながる地域との連携事業を実施した。</p>	<p>食物栄養と食文化 令和7</p>

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>目指す。</p> <p>②新たな取組により高校との連携強化を目指す。 (該当なし)</p>	事業参画 評価・改善	調査・研究 事業参画	調査・研究 事業参画	調査・研究 事業参画	調査・研究 事業参画			年度 (健康栄養学科年報)
<p><b>2. 研究ビジョン</b> <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b></p> <p>①論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・現職管理栄養士と連携し、地域の健康に関する調査・研究を奨励し、論文投稿を推奨する。</p> <p>②公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・財団を含めた事業に応募し、外部資金獲得を目指す。</p> <p>③学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・各学科・専攻およびセンターと協働で研究し、地域に貢献する。</p> <p>④実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・研究科の社会人入学生を含む現職管理栄養士のスキルアップを図る事業を展開する。</p>	研究課題 抽出・照会	研究課題 抽出・照会 研究支援	研究課題 抽出・照会 研究支援	研究課題 抽出・照会 研究支援	研究課題 抽出・照会 研究支援	III	現職管理栄養士と連携し、地域課題を解決に導く活動をした。	食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)
	財団等調査	準備	応募、評価	応募、評価	応募、評価	IV	外部団体からの助成を受けた。	研究委託申込書
	地域課題抽出	連携提案・協力依頼	調査・分析 連携提案	調査・分析 連携	情報発信 分析	III	健康栄養学科と連携し地域課題改善のための活動を実施した。	食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)
	ニーズ調査	講座開講	評価・改善	評価・改善	評価・改善	II	研究科の社会人学生はいないが、地域課題の抽出をし、現職管理栄養士のスキルアップのための基盤となる地域活性化事業を協働した。	食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 地域コミュニティづくり</b></p> <p>①特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。) ・行政の事業に参画し、地域住民との活動や調査研究の成果を可視化して地域に発信する。</p> <p>②大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。) ・地域の健康長寿に関する情報発信、事業への参画を通して地域貢献を目指す。</p>	参画事業の抽出	活動 調査研究	評価 分析	活動 成果を資料化	地域発信	III	地域活性化のための事業に参画した。	食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)
	ニーズ調査 マッチング	事業参画 評価・改善	調査研究 事業参画 情報精査	改善・評価 情報発信	改善・評価 情報発信	III	地域の健康増進に関する課題抽出を行い、事業に参画した。	食物栄養と食文化 令和7年度 (健康栄養学科年報)

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>(2) 生涯学習の環境づくり</b></p> <p>①教育リソースを活かした生涯学習を展開する。</p> <p>・地域の健康情報を活用し、市民もしくは現職管理栄養士に対する講座を展開する。</p>	地域情報 集積	地域課題 分析	情報を資 料化	試行 評価・改善	実施	IV	地域支援として行政と協働で健康増進のための講座を開講した。	食物栄養と食文化 令和7 年度（健康栄養学科年報）
<p><b>4. 組織・運営体制</b></p> <p><b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b></p> <p><b>(1) 経営基盤の確保のための措置</b></p> <p>①定員管理を適正に行う。 (該当なし)</p> <p>②収益事業を推進する。 (該当なし)</p> <p>③外部資金の確保に努める。 ・公的資金受給に向け、情報収集と準備を進める。</p> <p><b>(2) ステークホルダーとの連携</b></p> <p>①大学情報を効果的に発信する。 (該当なし)</p> <p>②学内外からの大学支援を依頼する。 (該当なし)</p> <p><b>(3) 計画的基盤整備</b></p> <p>①環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。 ・地域連携、情報発信等に必要かつ有効な設備を計画的に整備する。</p> <p>②学生・教職員のニーズに応える整備を行う。 ・活性化費を活用し、地域事業の参画、研究活動、情報発信等に必要 既存の設備の更新をする。</p> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>①適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。 (該当なし)</p>	情報収集・ 準備	申請・実施 情報収集	評価・改善 情報収集	評価・改善 情報収集	評価・改善 情報収集	III	美濃にわか茶屋からの受託研究を実施できた。	研究委託申込書
	設備の調 査 整備品目 決定	設備の調 査 計画的に 整備	設備の調 査 計画的に 整備	設備の調 査 計画的に 整備	設備の調 査 計画的に 整備	III	情報発信のために必要な設備を調査中である。	
	機器点検 必要機器 整備	機器点検 必要機器 整備	機器点検 必要機器 整備	機器点検 必要機器 整備	機器点検 必要機器 整備	III	地域事業参画のための設備を確認しているが、不具合はない。	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>(5) 教職員の確保のための措置</p> <p>①学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。 (該当なし)</p> <p>②計画的人事施策により組織の若返りを図る。 (該当なし)</p> <p>③FD・SDを推進する。(該当なし)</p>								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p><b>（1）主体的学びの環境整備のための措置（カリキュラムの整備）</b></p> <p>① 学部学科等で遠隔教育 60 単位を提供できる体制整備を進める。                      ・e-Learning 科目の整備とともに、対面授業とオンライン授業の併用や仮想現実(VR)等の最先端の技術の活用ができるよう地域教材の充実を図り、e-Learning やメタバースでの活用を可能とする。</p> <p><b>（2）主体的学びの推進のための措置（授業内容の改善）</b></p> <p>① 社会変化と社会ニーズに沿って、デジタルアーカイブとその利活用、ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学びを展開しDX推進に貢献できる必要な知識・技術の修得を目指す。ディプロマ・ポリシーを検討し、カリキュラム・ポリシーを不断に見直す。</p> <p>①-1 デジタルアーカイブとその利活用                      ・沖縄女子短期大学、沖縄カリキュラム研究会、岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、随時検討する。</p> <p>①-2 ドローン、データサイエンス、メタバース等を取り入れた学び                      ・仮想現実(VR)等の最先端の技術の活用ができるよう地域教材の充実を図り、e-Learning やメタバースでの活用を可能とする。</p> <p>①-3 ディプロマ・ポリシーの検討、カリキュラム・ポリシーの見直し                      ・検討委員会にて、随時検討を行う。</p> <p>② 人間力、コミュニケーション力の伸長を意識した学びを推進する。                      ・担当する委員会にて随時検討する。</p> <p>③ 新たな資格取得支援を推進する。                      ・新たな資格に関する情報を随時入手する。</p> <p><b>（3）学修支援体制の拡充のための措置</b></p> <p>① 学修成果の可視化に努め、学修成果を学生が実感できる支援を充実する。                      ・Google for Education などデータを可視化するとともに学生の習</p>	準備	実施	継続	継続	継続	III	理科や教職リサーチなどの科目で e-Learning やメタバース、AI を利用している。これにより、学生の興味や進度に合わせた学習が可能になっている。	シラバス一覧、メタバース ( <a href="https://dac.gijodai.ac.jp/metavers/">https://dac.gijodai.ac.jp/metavers/</a> )
	準備	実施	継続	継続	継続	III	沖縄女子短期大学、沖縄カリキュラム研究会、岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、授業でデジタルアーカイブの活用や沖縄の観光地のメタバース化の活用を進めた。	成果報告書 カリキュラム開発研究誌
	準備	実施	継続	継続	継続	III	沖縄女子短期大学、沖縄カリキュラム研究会、岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、授業でデジタルアーカイブの活用や沖縄の観光地のメタバース化の活用を進めた。	メタバース成果報告書
	準備	実施	継続	継続	継続	III	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	Diploma Policy 等各種ポリシー
	準備	実施	継続	継続	継続	III	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	メタバース成果報告書 カリキュラム開発研究誌
	実施	継続	継続	継続	継続	III	新たな資格に関する情報を随時入手している。	資格一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	メタバース成果報告書

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>熟度等のデータを収集し、データを基に習熟度別学習を実施やアドバイスを行えるよう支援する。</p> <p>② 教育研究資料のアーカイブ化を拡大し、利活用を推進する。 ・データベースに教育研究資料を蓄積し、e-Learning やメタバースでの活用を可能とするよう支援する。</p> <p>③ インターンシップ・各種実習の充実・支援について検討し、推進する。 ・インターン受け入り先の開拓を積極的に行う。</p> <p>④ 生活基盤の安定を支援する。(奨学金制度の活用を推進) ・DX 特別コースの奨学金を積極的に活用する。</p> <p>⑤ 就職率の維持、各種資格・試験の合格率等の向上を目指す。 ⑤-1 就職率の維持 ・就職指導を充実してゆく。 ⑤-2 各種資格・試験の合格率等の向上 ・学部・大学院と連携して、集中講義などを行う。</p> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>① 学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格、大学の魅力を創出し学生確保を目指す。 ①-1 学科等の改組・改編 ・デジタルトランスフォーメーション(DX)による教育の質的転換に即した改組・改編に積極的に取り組む。 ①-2 新たな資格の取得 ・新たな資格取得のために情報収集を行い、それにあわせて整備する。 ①-3 大学の魅力の創出 ・DXによる教育の質的転換のため、ICTを利活用した質の高い教育について研究し、沖縄カリキュラム研究会等と連携して研究成果の啓発を図ることで魅力を発信する。</p> <p>② 新たな取組により高校との連携強化を目指す。 ・DX 特別コース受験者用「高校生のためのメタバース講座」を沖縄サテライト校ミニオープンキャンパスとして実施する。</p>	実施	継続	継続	継続	継続	III	成果報告書にメタバース活用事例を掲載し公開している。ホームページで発信している。	カリキュラム開発研究誌 メタバース成果報告書
	実施	継続	継続	継続	継続	III	沖縄女子短期大学と連携して沖縄でのインターシップを継続している。	インターン先一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	沖縄での広報に活用している。	奨学金受給者表
	実施	継続	継続	継続	継続	III	継続実施している。	就職先一覧表
	実施	継続	継続	継続	継続	III	教員採用試験対策、公務員採用試験対策用教材を沖縄サテライト校にも配信している。 沖縄女子短期大学と連携して二次試験対策を行っている。	集中講義一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	III	沖縄女子短期大学と連携して、メタバース授業の環境を整えている。	沖縄カリキュラム開発研究センター規則
	準備	実施	継続	見直し	実施	III	情報に関する資格の情報収集を継続している。	資格一覧表
	実施	継続	継続	継続	継続	III	沖縄に関するメタバースの充実を図っており、沖縄カリキュラム研究会や沖縄県内の小学校や幼稚園と連携して、実証授業を継続している。	メタバース成果報告書
	実施	実施	見直し	実施	実施	III	沖縄サテライト校ミニオープンキャンパスとして実施している。	高校生のためのメタバース講座・実施高校一覧表
<p><b>2. 研究ビジョン</b> <b>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</b></p> <p><b>(1) 研究成果の発信</b></p> <p>① 論文作成を推進し、研究のブランド化を図る。 ・カリキュラム開発研究誌、沖縄カリキュラム開発研究誌の充実を図</p>	実施	継続	継続	継続	継続	III	成果報告書として発刊。	メタバース成果報告書 日本教育情報学会

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>る。</p> <p>② 公募事業等に挑戦し、外部資金の獲得を目指す。 ・地方自治体等のDX関係の公募に積極的に応募する。</p> <p>③ 学内連携を推進し、新たな研究活動を展開する。 ・DX関係の学内の委員会との連携を図る。</p> <p>④ 実践教育研究を推進し、大学院教育の充実に図る。 ・メタバースやAI等の活用による教育DXや観光DXの推進、フィールドワーク、地域資料などの現地調査などを意識した大学院教育を行う。</p>	実施	継続	継続	継続	継続	III	沖縄女子短期大学と連携して沖縄県の観光関係予算獲得について協議。	カリキュラム開発研究誌
	実施	継続	継続	継続	継続	III	DX推進部会、及び、岐阜女子大学メタバースプロジェクトと連携して研究などを実施している。	
	準備	実施	継続	継続	継続	III	教材開発特講、教材開発研究などで、メタバースやAI等の活用成果をカリキュラムに反映させている。	大学院シラバス
<p><b>3. 貢献ビジョン</b> <b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 地域コミュニティづくり</b></p> <p>① 特徴的取組みの広報を展開する。(活動実績の見える化を図る。) ・メタバースプロジェクトとの連携を強化し、地域貢献、産官学連携の成果をマスメディアに積極的に発信する。</p> <p>② 大学活動と地域ニーズとの連携を図る。(マッチングを図る。) ・メタバースプロジェクトとの連携を強化し、地域貢献、産官学連携の成果をマスメディアに積極的に発信する。</p> <p><b>(2) 生涯学習の環境づくり</b></p> <p>① 教育リソースを活かした生涯学習を展開する。 ・社会人が活用できるようメタバースを充実させる。</p>	実施	継続	継続	継続	継続	III	成果報告会、ホームページ、教育リサーチや理科などでの授業で特徴的取組みの広報を展開	メタバース報告書 カリキュラム開発研究誌
	実施	継続	継続	継続	継続	III	沖縄県の観光振興と観光教育に連携したメタバースを開発し、広報している。	メタバース報告書 カリキュラム開発研究誌
	準備	準備	実施	継続	継続	III	沖縄県の観光振興と観光教育に連携したメタバースを開発し、広報している。	メタバース報告書 日本教育情報学会
<p><b>4. 組織・運営体制</b> <b>健全経営と安定化【教育理念実現のための体制・基盤の維持・改革】</b></p> <p><b>(1) 経営基盤の確保のための措置</b></p> <p>① 定員管理を適正に行う。 ・社会のニーズに応じて、各学科の定員の増減を行う。</p> <p>② 収益事業を推進する。 ・地方自治体等のDX関係の公募に積極的に応募する。</p>	準備	実施	継続	継続	継続	III	新学科の内容を反映して、AIやメタバースの充実を図っている。	学科定員一覧表
	準備	実施	実施	継続	継続	III	沖縄女子短期大学と連携して沖縄県との連携を模索中。	メタバース報告書

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>③ 外部資金の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方自治体等のDX関係の公募に積極的に応募する。</li> </ul> <p><b>(2) ステークホルダーとの連携</b></p> <p>① 大学情報を効果的に発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページでのDX関係の活動を公開し、メタバースプロジェクトと連携して成果をマスメディアで積極的に配信する。</li> </ul> <p>② 学内外からの大学支援を依頼する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メタバースプロジェクトと連携して産官学連携をさらに推進する。</li> </ul> <p><b>(3) 計画的基盤整備</b></p> <p>① 環境保全、人権、安全への配慮し計画的に整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会を定期的に行う。</li> </ul> <p>② 学生・教職員のニーズに応える整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価委員会の意見を参考にするとともに、アンケート調査を活用して学生のニーズを把握するようにする。</li> </ul> <p><b>(4) 学生の確保のための措置</b></p> <p>① 適正な定員管理(収容定員充足率80%を目指す)に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄女子短期大学や沖縄カリキュラム研究会との共同研究による沖縄の教育資料の提供や観光資源のメタバース等での公開により魅力の発信に努める。</li> </ul> <p><b>(5) 教職員の確保のための措置</b></p> <p>① 学科等の改組・改編に取り組み、新たな資格取得に必要な適正教員を確保する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DX関係の若手で有能な教員の確保に努力する。</li> </ul> <p>② 計画的な人事施策により組織の若返りを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定年制の厳格な運用を図る。</li> </ul> <p>③ FD・SDを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄女子短期大学と共同でDX関係の研修会・研究会を実施する。</li> </ul>	準備	実施	準備	実施	継続	Ⅲ	沖縄女子短期大学と連携して沖縄県との連携を模索中。	外部資金取得一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	ホームページでのDX関係の活動を公開し、メタバースプロジェクトと連携して成果をマスメディアで積極的に配信している。	入学案内 各種パンフレット メタバース成果報告書 カリキュラム開発研究誌
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	メタバースプロジェクトと連携して産官学連携を推進中。	
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	研修会を実施している。	メタバース成果報告書 カリキュラム開発研究誌
	実施	継続	継続	継続	継続	Ⅲ	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	外部評価委員会報告書 学生アンケート報告書
	準備	実施	継続	見なおし	実施	Ⅲ	沖縄の教育資料の提供や観光資源のメタバース等での公開している。	カリキュラム開発研究誌 メタバース成果報告書 入学者一覧表
	準備	準備	実施	実施	実施	Ⅲ	デジタルフロンティア部会と連携して工学系の教員を探している。	教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ		教員一覧表
	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	授業と連携し、沖縄女子短期大学と共同でDX関係の研修会・研究会を実施した。	メタバース報告書
<p><b>5. 点検評価</b></p> <p>自己点検評価委員会と内部質保証推進会議の連携</p>								

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<b>(1) 内部質保証の継続のための措置</b> ① 教学マネジメントの自己点検評価を推進する。 ・岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供する。	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	まなびの評価項目による評価を継続し、授業などに反映されている。	自己点検評価報告書 カリキュラム開発研究誌
	② 教学IR体制を充実する。 ・岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供する。	準備	実施	継続	継続	継続	Ⅲ	岐阜女子大学カリキュラム開発研究所と連携し、資料を収集し、提供している。

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>1. 教育ビジョン</b>  <b>教育の充実【教育体制を拡充し、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを実現するための内部質保証の充実】</b></p> <p>（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化創造学部の「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げられた「日本や諸外国の文化を理解し、その知識を観光業や英語教育の分野に発信できる力」の育成のため、「実践的学問」として南アジア地域言語（ヒンディー語）、地域研究などについて修得する教育課程を支援する。センター所属の特別客員教授が、授業を担当する。</p> <p>・実習、演習型の学修を支援し、社会文化理解のための現地映画、新聞、雑誌、衣装、家具、雑貨などの収集を進め、さらに機材、テキストなどの提供を行う。南アジアの人びとの生活、衣服、食などへの関心からの異文化理解も深める。英語教員免許の必須科目である「異文化コミュニケーション」をセンター所属の特別客員教授が担当する。</p> <p>・学生の自主的な活動の活性化を促し、本研究センターのスタッフによるe-learning構築などを行う。</p> <p>②教員の研究にかかわる南アジア地域、国際交流、国際協力に関する資料の提供、論文作成のための資料集の提供、研究センター紀要である「南アジア・アフェアーズ」掲載支援など、教員の研究論文作成支援を行う。インド在住のセンター員（インド国籍）の協力により、教員の各種研究活動についての現地からの協力を行う。</p>	<p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>センター 内にて検 討、立案、 準備</p> <p>外部学生 も対象と する拡大 案を検討</p> <p>「南アジ ア研究支 援プロジ ェクト」の 検討・立案 ・準備</p>	<p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>学生対象 とする、オ ンライン 講演シリ ーズ開催</p> <p>全国の大 学生を対 象とする、 オンライ ン講演シ リーズ開 催</p> <p>全国の大 学生を対 象とする、 オンライ ン講演シ リーズ開 催</p> <p>国内外の 大学生を 対象とす る、オンラ イン講演 シリーズ 開催(基本 は、英語に よる授業)</p> <p>「南アジ ア研究支 援プロジ ェクト」の 運営開始</p>	<p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>全国の大 学生を対 象とする、 オンライ ン講演シ リーズ開 催</p> <p>全国の大 学生を対 象とする、 オンライ ン講演シ リーズ開 催</p> <p>国内外の 大学生を 対象とす る、オンラ イン講演 シリーズ 開催(基本 は、英語に よる授業)</p> <p>「南アジ ア研究支 援プロジ ェクト」運 営</p>	<p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>全学共通 外国語、1 年(ヒン ディー語)</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>文化創造 学部「国際 情勢」科目</p> <p>国内外の 大学生を 対象とす る、オンラ イン講演 シリーズ 開催(基本 は、英語に よる授業)</p> <p>「南アジ ア研究支 援プロジ ェクト」運 営</p>	<p>IV</p> <p>III</p> <p>III</p> <p>III</p>	<p>2024年度の全学共通外国語1年「ヒンディー語」の受講生は、60名であった。東海地方において、特に岐阜県内の大学のなか、学部1年生の基礎科目としてヒンディー語の授業を行う大学は他になく、入学後のガイダンスなどで紹介しており、その特色が認識されている。学生たちのアジア系外国語習得への関心は高く、また、初めての文字、発音、文章作成など積極的に学習した。</p> <p>文化創造学部「国際情勢」科目では、基本は英語での授業は、2025年度は開講されなかった。しかしながら、学生向けのメール案内にて、センターが協力し、センター長ペマ・ギャルポ名誉教授が講演した「ぎふアジア映画祭」を紹介し、学生多数が参加した。</p> <p>南アジア研究センターの対面およびオンラインでの内部研究会、一般公開研究会を年度内において計3回開催した。南アジア諸国での総選挙、政変などについての動向分析と解説を内容とした。特に2025年度は、センター創立25周年記念事業として「国際会議」を企画し、対面およびオンラインにて開催した。その開催案内を学生にも紹介し、オンライン参加を呼びかけたところ、学生の参加を得た。また、今後のe-learning構築事業のため、他大学の実施状況について情報を収集し、センター内での検討を続けた。</p> <p>南アジア研究センターは、1) 国立国会図書館関西館アジア情報課が運営する「アジア情報機関ダイレクトリー」掲載し、全国の地域研究機関の共同研究組織である「地域研究フォーラム」に加盟している。各センター員の研究活動は、国内外の学術専門誌に発表されており、その内容は年刊紀要『南アジア・アフェアーズ』に、センター員の「研究・活動報告」として掲載した。海外在住のセンター員は、インド、</p>	<p>『履修要項』・シラバス</p> <p>『履修要項』・シラバス 「ぎふアジア映画祭」チラ シ2種類</p> <p>『研究会』・「国際会議の開 催案内</p> <p>南アジア研究センター発行 の年刊紀要『南アジア・アフ ェアーズ』に、センター員の 「研究・活動報告」を掲載す る。</p>	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6 年度 (2024)	R7 年度 (2025)	R8 年度 (2026)	R9 年度 (2027)	R10 年度 (2028)			
<p>③南アジアの地域社会に関する多角的な研究調査活動について、センター所属の特別客員教員・特別研究員による、個別研究の活発化を図る。さらに、センター内の共同研究を進める。2022 年度の「地域研究フォーラム」全国大会・公開シンポジウム開催の経験から、国内外の学際的な共同研究を推進する。岐阜女子大学の教育目的を実現するため、アジアにおける大学・女子大学教育の役割など、幅広い分野を対象とする共同研究を推進する。</p>	所属研究者の研究活動の活発化	所属研究者の研究活動の活発化	所属研究者の研究活動の活発化	所属研究者の研究活動の活発化	所属研究者の研究活動の活発化	III	<p>バン格拉デシュ、シンガポールに拡大しており、オンラインにて研究会合に参加を続けている。</p> <p>センター員の研究活動は、国内外の学術専門誌に発表されており、その内容は年刊紀要『南アジア・アフェアーズ』に、センター員の「研究・活動報告」として掲載した。2025 年 11 月 12 日、拓殖大学国際日本文化研究所との共催による第 2 回共同シンポジウムを開催した。このシンポジウムでは、東京国際大学の学部学生も参加し、さらに内容が充実、参加者数も増加した。</p> <p>センター員には、日本南アジア学会理事、日本 GNH 学会理事・副会長、国際的アジア研究団体である Association for Asian Studies の会員・各種委員会の委員を務めている。また、センター長は公益財団法人日印協会の役員を務めており、客員教授 1 名はその事務局運営を補助している。</p>	11 月 12 日開催、研究会案内（開催資料）
<p>日本における先導的シンクタンクである公益財団法人国際問題研究所、国際文化会館などの諸機関、さらに南アジア諸国のシンクタンク、NGO、さらに国連大学、世界銀行、アジア開発銀行など諸機関との連携と協力した活動を行う。</p>	国内外の諸機関・研究者との共同研究の立案作業、準備	国内外の諸機関・研究者との共同研究の立案作業、準備	国内外の諸機関・研究者との共同研究の開始	国内外の諸機関・研究者との共同研究の実施	国内外の諸機関・研究者との共同研究の完了	III	<p>2025 年度日本南アジア学会全国大会において、センター所属の研究者 4 名、学外専門研究者の計 5 名により、センター員の客員教授を代表としてパネル発表を行った。また、2025 年度より新たに公益財団法人笹川平和財団との共同研究事業を企画しており、協議が進行している。</p>	日本南アジア学会第 38 回全国大会プログラム（9 月 28 日午前。パネル 3 発表）
<p><b>（2）教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①大学院における国際関係、国際協力に関する遠隔教育を進める。</p> <p>②学部学生を中心とする「現地スタディー・ツアー」について、学内における中核として運営する。南アジア諸国の大学との提携校としての協力も検討する。</p>	大学院において、南アジア研究センターが主体となる教育活動についての調査研究、資料収集	大学院において、南アジア研究センターが主体となる教育活動に関する手続き、立案、準備	大学院において、南アジア研究センターが主体となる授業を開始	大学院における授業	大学院における授業	III	<p>センター内における大学院に関する検討が進行しておらず、進捗は遅れている。しかしながら、「センター規程」に定められた「南アジア研究センター 研究生」制度準備を進め、2026 年度より入学する体制を確立した。</p> <p>「現地スタディー・ツアー」については、南アジア地域を含めて国際情勢の緊張の高まりもあり、現地訪問の機運は生じていない。</p>	「南アジア研究センター 研究生 内規」

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>①文化創造学部の学部生・院生への各種の講義と実習（南アジア言語、国際コミュニケーション、異文化論、文化人類学演習など）による支援など、在学中だけでなく卒業後までを視野に入れた各種支援策の充実を図る。</p> <p>②学部生の卒業論文、院生の修士論文作成支援を行う。</p>								
<p>2. 研究ビジョン</p> <p>研究の充実【教育を充実するための研究の推進】</p> <p>(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標</p> <p>①日本全国、南アジア諸国からも多くの分野から幅広くセンター員を委嘱し、日本において私立大学が付置する唯一の南アジア研究機関として、南アジア研究の拠点を目指す。</p> <p>②南アジア研究センターの使命を実現するため3部門を設置した。今後は、さらに相連携させた活動を行う。</p> <p>①地域研究部門</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南アジアにおける7カ国について、政治社会文化などを主体として行う地域研究。</li> </ul> <p>②複合領域研究部門</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南アジア地域内、南アジア地域協力連合（SAARC）、南アジアと日本、アメリカ・中国も含めた国際関係など、複合的な領域に拡大した研究。</li> </ul> <p>③国際交流部門</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際共同研究の企画と実施、また世界各地で開催される国際会議、シンポジウムなどへの研究員の派遣を目指す。</li> </ul>	<p>適正な選考によるセンター員委嘱行事を行う。特に、センター員のジェンダーバランスについて適正化を図る。</p>	<p>適正な選考によるセンター員委嘱行事を行う。特に、センター員のジェンダーバランスについて適正化を図る。</p>	<p>適正な選考によるセンター員委嘱行事を行う。</p>	<p>適正な選考によるセンター員委嘱行事を行う。</p>	<p>適正な選考によるセンター員委嘱行事を行う。</p>	<p>III</p> <p>南アジア研究センターは、センター長および25名のセンター員で構成されているが、そのうち国内での博士学位、国外でのPh.D.学位取得者は12名を数える。これは国内有数のアジア、南アジア研究機関であることの証左である。また海外在住のセンター員は、インド、2名、バングラデシュ1名、シンガポール1名（スリランカ出身）となり、現地情報の収集、分析に貢献している。</p> <p>ジェンダーバランスについては、積極的に男性以外の研究者の委嘱に務めており、2025年度は4名の男性以外の研究者が所属している。</p> <p>センターの広報活動の充実のため、「対外メーリングリストによるメール通信」を開始し、研究会の案内を中心として情報発信に務めており、南アジア研究者、政府機関関係者、メディア関係者など、150名を対象として不定期ではあるが情報提供を進めている。</p>	<p>「2025年度 岐阜女子大学南アジア研究センター」名簿</p>	
	<p>3部門による研究活動活発化のため、人員配置、研究計画の立案と運営。</p>	<p>センター員全体の研究会、部門別研究会、あるいは部門合同研究会などを開催し、研究活動を活発化する。</p>	<p>センターにおける、3部門研究活動を活発化する。</p>	<p>センターにおける、3部門研究活動を活発化する。</p>	<p>センターにおける、3部門研究活動を活発化する。</p>	<p>III</p> <p>センター内に設けられた運営委員会において、協議を進めた。①地域研究部門に関しては、南アジア諸国での総選挙結果分析、政変分析などきわめて積極的に活動を展開した。その分析と研究結果から、日本南アジア学会全国大会でのセンター員4名によるパネル発表を企画し、広く成果を公表した。②複合領域研究部門については、拓殖大学国際日本文化研究所との共同シンポジウムを開催した。③国際交流部門においては、センター研究会に南アジアおよびシンガポール在住研究者を招き、新鮮な現地情報の入手、動向分析研究に努めた。また創設当初より進める世界文化遺産の岐阜県内所在の「白川郷」についての共同研究では、外国人観光客の増加によるオーバーツーリズム問題について、国際共同研究が継続している。</p>	<p>2025年度研究会「案内」福永・ラーナー共同論文</p>	

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
<p><b>(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①南アジア研究センターの使命を体現するため、「運営委員会」を置き、円滑な運営を行う。</p> <p>②家政学部・文化創造学部、文化情報研究センターなどの多くの研究科、研究センターと学術・人的交流と連携を深め、それらの専門分野からの南アジアを対象とする新しい研究推進を目指す。</p>	運営委員会の設置準備、規程作成、運営委員会の活動開始。	運営委員会の定期開催、大学本部への報告を行う。	運営委員会の定期開催、大学本部への報告を行う。	運営委員会の定期開催、大学本部への報告を行う。	運営委員会の定期開催、大学本部への報告を行う。	IV	センター長の指導のもと、4名の委員による「運営委員会」が活動した。特に、従来において慣例あるいは明文化されていないセンター運営に関する重要事項について、「申し合わせ」を定めていた。この「申し合わせ」をさらに改訂し、「センター規程」のもとでの成文化を行い、「内規」、「運営委員会運営方法」として制定した。これにより、私立大学附置研究所として適正な運営を進めている。	「内規」、「運営委員会運営方法」
<p><b>3. 貢献ビジョン</b></p> <p><b>社会連携と貢献【大学活動、人的交流等による社会連携の推進】</b></p> <p><b>(1) 社会との連携や社会貢献に関する目標を達成するための措置</b></p> <p>①南アジアへの関心を高め、その地域的特性日本社会とのつながりについて、児童・市民などに普及を目指し、公開講演会の実施を支援する。テレビ、新聞でのコメント、論説寄稿などにより、広く南アジアの現状について、理解を高めるためすべてのセンター員が活動を続ける。</p> <p>②岐阜県及び近隣県の小中高校の教員を対象として、歴史・地理、政治・経済などの分野でいかに南アジア地域を教えるかについて、ともに考えながら教育実践を進めるプロジェクトを促進する。また、電話・メールなどにより、南アジア事情についての質問を教員より受け、回答する体制を整える。</p> <p>③毎年刊行する研究紀要の『南アジア・アフェアーズ』に加えて、優れた研究業績を刊行する『モノグラフ・シリーズ』既刊したが、今後も若手研究者を対象とする出版助成を行う。公益財団法人岐阜県国際交</p>	岐阜県内の教育委員会、各小中学校を対象とする「社会連携・教育プログラム」の研究、作成	「社会連携・教育プログラム」の研究、作成	「社会連携・教育プログラム」の研究、作成	「社会連携・教育プログラム」の研究、作成	「社会連携・教育プログラム」の研究、作成	III	<p>岐阜市文化センター主催の「ぎふアジア映画祭」に協力を継続している。9月の一般市民対象のブータン映画上映後の講演会にてセンター員（センター長）が講演を担当した。さらにセンター員が南アジア地域、その諸国について、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌などにおいて、解説コメントを担当している。</p> <p>②については、2026年度より新たに県内の小中高教員向けの「南アジア教員実践研究会」を立ち上げるための準備作業を進めている。県内において南アジア地域に関する正確な授業内容、教材作成などの補助となるような活動を企画している。</p>	2025年9月「ぎふアジア映画祭」チラシ2種類
<p>③毎年刊行する研究紀要の『南アジア・アフェアーズ』に加えて、優れた研究業績を刊行する『モノグラフ・シリーズ』既刊したが、今後も若手研究者を対象とする出版助成を行う。公益財団法人岐阜県国際交</p>	「紀要」発行	「紀要」発行	「紀要」発行	「紀要」発行	「紀要」発行	III	<p>創立25周年記念事業として、既刊の1号よりの全文公開を企画し、日本政府外郭団体運営のJ-STAGEでの公開登録を申請し、採択された。2026年度より全文公開のため、著者および著作権者からの「著作権使</p>	「紀要関連の規程類」一式（和英文）

中期計画	ロードマップ					進捗状況の 記号	進捗状況の判断理由	エビデンス
	R6年度 (2024)	R7年度 (2025)	R8年度 (2026)	R9年度 (2027)	R10年度 (2028)			
流財団との連携を深め、共同事業を行う。							<p>用」承諾を得る作業と継続している。</p> <p>また J-STAGE における全文公開のため、「紀要関連の規程類」を制定した。</p> <p>さらに、査読体制の充実のため学外査読委員 1 名（上智大学名誉教授）、学内査読委員 1 名（文化創造学部教授）を委嘱した。</p> <p>年刊紀要「南アジア・アフェアーズ」第 22 号は、創立 25 周年記念特別号としてセンター員に対して全員執筆を依頼し、多くの投稿を得ている。このため 1) 紙版の印刷部数の縮小、2) PDF 版への移行を決定した。</p> <p>上記の「紀要規程類」の制定から、投稿論文の査読体制が確立され、査読に時間を要しており、第 22 号（2025 年度号）は 2026 年 5 月に刊行予定である。</p>	